

「幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援ガイド（案） Ver. 2」活用の試行的運用の実施と評価

研究代表者 衛藤 久美（女子栄養大学）

研究分担者

鈴木 美枝子（玉川大学）

佐々木 溪円（実践女子大学）

多田 由紀（東京農業大学）

祓川 摩有（聖徳大学）

船山 ひろみ（鶴見大学）

秋山 有佳（山梨大学大学院）

研究協力者

會退 友美（東京家政学院大学）

石川 みどり（国立保健医療科学院）

上田由香理（大阪樟蔭女子大学）

近藤 洋子（玉川大学）

杉浦 至郎（あいち小児保健医療総合センター）

高橋 嘉名芽（愛育病院）

西 智子（元日本女子大学）

仁藤 喜久子（仙台白百合女子大学）

林 典子（十文字学園女子大学）

茂呂 歩実（鶴見大学）

山縣 然太朗（山梨大学大学院）

山崎 嘉久（あいち小児保健医療総合センター）吉池 信男（青森県立保健大学）

研究要旨

令和 2 年度「幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援に向けた効果的な展開のための研究」で作成された「幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援ガイド（案）Ver.2」（以下、支援ガイド案）を、市区町村保健センター、保育所・幼稚園・認定こども園等において一定期間活用してもらい、支援ガイド案の活用方法、並びに支援ガイド案の改訂点について明らかにすることを目的とした。

令和 2 年度の支援者対象調査研究協力施設のうち、令和 3 年度の協力の内諾が得られた 46 施設に新規 14 施設を加えた合計 60 施設を対象に、令和 3 年 8～9 月に、支援ガイド案を幼児期の栄養・食生活支援にかかわる通常業務の中で 1 か月以上活用した上で、活用方法、役立った内容、追加資料に対する意見等を質問紙にて回答するよう依頼した。質問紙は 59 施設から回収し（回収率：98.3%）、58 施設を有効回答とした（有効回答率：98.3%）。質問紙の回答が得られた施設のうち、合計 20 施設、15 グループを対象に、令和 3 年 10～12 月に、個別又はグループによる半構造化インタビューを対面又はオンラインで実施した。

有効回答施設 58 施設の内訳は、母子保健事業の場 9 施設、保育・幼児教育の場 47 施設、その他 2 施設であり、回答者は管理栄養士・栄養士が 40 施設と多かった。支援ガイド案の活用期間は平均 48.8 日で、子どもや保護者に対する支援の場で活用した施設は

75.9%、施設内の支援者間での情報共有等の場で活用した施設は 62.1%、他施設と連携した事業を検討・実施する際に活用した施設は 18.2%であった。さらにインタビュー調査より、これらの具体的な活用方法を事例的に把握した。令和 2 年度に作成して追加した 2 つの資料は、どちらも 9 割以上が「わかりやすい」と回答した。インタビュー調査にて、わかりやすい点とわかりにくい点の具体内容、資料 2 については Q&A の事例を把握した。以上の質問紙調査及びインタビュー調査結果をふまえて、支援ガイド案の改訂点を整理した。主な改訂点として、全体では、肥満児に対する支援に関するコラムの追加等、資料 1 では、舌と口唇の動きに関するイラストの追加、「食べる機能の発達」の具体的内容について示したコラムの追加等、資料 2 では、p.13 の図 22 に基づく配置、全体的な見やすさ・読みやすさの改善、収集した Q や A の追記等であった。

本研究の結果より、支援ガイド案は、母子保健や保育・幼児教育の施設において、幼児や保護者に対する支援の場や、施設内の支援者間での情報共有等の場で、活用可能なガイドであることが確認できた。

A. 研究目的

平成 29 年度～令和元年度厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）「幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援ガイドに関する研究」（研究代表者 石川みどり）（以下「石川班」）では、幼児の栄養・食生活支援に関わる保健医療従事者や児童福祉関係者等を対象とした「幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援ガイド（案）」が作成された。

令和 2 年度から開始された「幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援に向けた効果的な展開のための研究」では、初年度に、支援者対象調査等を行い、新たに作成した 2 つの資料を追加し、「幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援ガイド（案）Ver.2」（以下、支援ガイド案）を作成した。

本研究の目的は、支援ガイド案を市区町村保健センター、保育所・幼稚園・認定こども園等において一定期間活用してもらい、支援ガイド案の活用方法、並びに支援ガイド案の改訂点について明らかにすることである。

B. 方法

1. 支援ガイド案の活用と質問紙による評価

支援ガイド案を幼児期の栄養・食生活支援にかかわる通常業務の中で 1 か月以上活用した上で、活用方法、役立った内容、追加資料に対する意見等を質問紙にて回答してもらった。

研究対象は、令和 2 年度の支援者対象調査と同様に、大きく母子保健事業の場、保育・幼児教育の場、その他とした。母子保健事業の場としては、乳幼児健康診査を実施している市区町村保健センターや医療施設、保育・幼児教育の場としては、公立・私立の保育所、幼稚園、認定こども園、その他としては、子育て支援センター等を対象とした。対象職種は、幼児の栄養・食生活支援に関わっている管理栄養士・栄養士、保健師、保育士、幼稚園教諭、保育教諭、看護師、調理員、歯科衛生士、歯科医師、医師、施設長等とした。

令和 2 年度の支援者対象調査研究協力施設のうち、令和 3 年度の協力の内諾が得られた 46 施設に、新規 14 施設を加えて、合

計 60 施設に依頼した。事前に調査の趣旨や内容について説明し、内諾を得た上で、依頼文書、同意書、支援ガイド案、質問紙等を送付した。質問紙への回答は、施設単位とし、代表者 1 名に回答してもらうよう依頼した。支援ガイド案等の送付は令和 3 年 8～9 月に段階的に行い、発送 2 か月後を回答〆切とした。締め切りを 2 週間以上過ぎてても回答がない場合は、最低 1 回の督促を行った。全ての回答は、令和 4 年 1 月までに回収した。合計 59 施設から回答を得（回収率：98.3%）、ほぼすべての質問に対して無回答であった 1 施設を除き、58 施設を有効回答とした（有効回答率：98.3%、表 1）。

調査内容は、支援ガイド案の活用状況、活用した職種、支援に役立ったか（3 件法）、支援ガイド案の巻末に掲載された資料 1 および資料 2 のわかりやすさ、資料 2 の Q として挙げられている例について、貴施設で実際に行ったことのある対応例（A）、資料 2 に追加した方がよいと思われる Q や A、感想・意見、組織や回答者について、とした（資料 1）。

選択肢を伴う質問項目（単一回答、複数回答）については、単純集計及び施設種類別のクロス集計を行った。施設種類間の割合の差の検定には、フィッシャーの正確確率検定を用いた。項目ごとに欠損値（無回答、無効回答、非該当）は除外して集計・解析した。集計・解析には IBM SPSS Statistics 28 を用いた。自由回答については、内容が似ているものをカテゴリー化した。

2. インタビューによる評価

質問紙の回答が得られた施設のうち、合計 20 施設、15 グループを対象に、個別又はグループによる半構造化インタビューを実施した（表 1）。

インタビュー対象は、12 月初旬までに質問紙の回答があった施設のうち、質問紙の回答内容を確認した上で、支援ガイド案を何らかに活用したと回答した施設の中から研究分担者で相談して決定した。なおあらかじめインタビューは難しいと言われた施設、これまでの支援ガイド案作成プロセスの中で既に複数回インタビュー調査を実施済みの施設は、対象外とした。

インタビューに参加人数は計 29 名（1 グループにつき平均 2 名）であった。職種別内訳は、管理栄養士・栄養士 22 名、施設長・副施設長 5 名、保健師 1 名、保育教諭 1 名だった。

インタビューは、令和 3 年 10～12 月に、対面又はオンラインで実施した。インタビューアは、研究分担者又は研究協力者 1 名以上が担当し、共通のインタビューガイド（資料 2）に基づき実施した。インタビュー所要時間は、平均 56 分（最小：30 分、最大 130 分）だった。

インタビュー内容は、あらかじめ対象者に承諾を得た上で、録音又は録画をした。逐語録を作成したうえで分析した。インタビュー内容のうち、ガイドの活用に関する内容や、ガイド資料 1 および資料 2 に関する内容、Q&A に追加すべき事例、その他についてそれぞれ抽出し、ガイドの活用に関する内容については、M-GTA を参考にカテゴリー化することを試みた。

3. 支援ガイド案改訂点の整理

以上の質問紙調査及びインタビュー調査の結果をふまえて、支援ガイド案改訂へ反映させる内容を、1) 支援ガイド案全体、2) 資料 1「乳幼児期における口腔機能の発達に対応した食の進め方」、3) 資料 2「幼児期の子ども・保護者の栄養・食生活支援に関す

る Q&A」に分けて整理した。

(倫理面への配慮)

質問紙調査及びインタビュー調査の実施に当たっては、事前に書面にて研究趣旨や内容、方法、個人情報の保護等について説明し、施設長及び対象者に書面で同意を得た上で、調査を実施した。本研究は、女子栄養大学研究倫理審査委員会の審査、承認を得た上で実施した（承認番号第 289 号）。

C. 結果

1. 質問紙調査結果

1) 有効回答施設・対象者特性

有効回答施設計 58 施設の内訳は、母子保健事業の場 9 施設、保育・幼児教育の場 47 施設、その他 2 施設であった（図 1）。保育・幼児教育の場としては、公立保育所 24 施設、私立保育所 12 施設と、保育所が大半を占めたが、幼稚園（3 施設）や認定こども園（6 施設）もあった。その他には、幼稚園、保育所、子育て支援センターの総合施設、市区町村食育施策担当が含まれていた。

回答者は、管理栄養士・栄養士 40 施設、保育士 3 施設、幼稚園教諭 2 施設、保育教諭 1 施設、調理員 1 施設、施設長・副施設長 9 施設、その他（調理師）1 施設、無回答 1 施設だった。施設長・副施設長と回答した 9 施設は、保育所、幼稚園、又は認定こども園の施設長・副施設長だった。9 名中 4 名は保育士及び幼稚園教諭、1 名は調理師、1 名は介護福祉士の資格・免許を保有していた。

2) ガイドの活用状況（表 2～4）

支援ガイド案の活用期間は、平均 48.8 日（最小 24 日、最大 107 日）だった。

子どもや保護者に対する支援の場で活用した施設は 75.9%だった。具体的な活用内

容としては、子どもの生活を把握したり、問題だと感じる行動を分析する際に参考にした（48.3%）、保護者との個別面談・個別相談の場において、保護者が抱える子どもの食事の悩み事に関する助言内容の参考にした（39.7%）、個別指導や相談の場において、子どもの食に関する課題を確認する際に参考にした（27.6%）が上位に挙がった。保護者との個別面談・個別相談の場において、保護者が抱える子どもの食事の悩み事に関する助言内容の参考にした割合は、保育・幼児教育施設よりも母子保健施設において有意に割合が高かった。活用した施設において、ガイド活用に関わった職種は、管理栄養士・栄養士（86.4%）の他、保育士（22.7%）、施設長・副施設長（15.9%）が多かった。「とても役に立った」と回答した施設は 37.2%で、「少し役に立った」（55.8%）と合わせると、ガイドを活用した施設の 9 割以上は役立ったと回答した。保育・幼児教育施設よりも母子保健施設において「とても役立った」割合が高かった。

施設内の支援者間での情報共有等の場で活用した施設は 62.1%だった。具体的な活用内容としては、多職種の支援者が幼児の栄養・食生活支援に関する情報共有をする際に、支援方針の確認や共有を行う際の資料とした（29.3%）、園や地域内での食育の計画を立てたり、食育の内容を検討する際の参考にした（25.9%）、職員会議で話をする際の資料とした（13.8%）が上位に挙がった。常勤職員と非常勤職員が実施する栄養相談において、支援ガイド案の内容を参考にすることで、支援にむらがないようにした割合は、保育・幼児教育施設よりも母子保健施設において有意に割合が高かった。活用した施設において、ガイド活用に関わった職種は、管理栄養士・栄養士（88.9%）の

他、保育士（55.6%）、施設長・副施設長（30.6%）、調理員（22.2%）、看護師（19.4%）、保育教諭（13.9%）など、多職種と活用していた。「とても役に立った」30.6%、「少し役に立った」63.9%と、ガイドを活用した施設の9割以上が役立ったと回答した。

他施設と連携した事業を検討・実施する際に活用した施設は18.2%だった。活用した10施設中6施設（全体の10.9%）は、他施設・他機関と連携して食育を行ったり、支援を行う際に参考にした、と回答した。連携先としては、私立保育所・幼稚園・認定こども園が3施設、私立保育所・幼稚園・認定こども園が1施設、子育て支援センターが1施設、その他4施設であった。

いずれの場においても「活用しなかった」と回答した施設は9施設だった。「調査期間中に活用する機会がなかった」7施設、「活用できる内容がない」1施設、「その他」2施設であった。その他と回答した施設は、すでに知っている内容だった、コロナの影響による分散登園などがあったため、と回答した。

3) 資料1, 2 わかりやすさ（表5～8）

どちらも9割以上が「わかりやすい」と回答した。「わかりにくい」と回答した施設は、資料1は3施設、資料2は4施設だった。「わかりにくい」内容とガイドへの反映内容を表6に示した。

資料2のQに対する対応例については、表7に示す通り、Q1～8すべてに対する対応例の事例が提示された。資料2に入れたほうがよい内容についても表8に示す様々な意見があった。

2. インタビュー調査結果

1) 支援ガイド案の活用状況について（表9～11）

子どもや保護者に対する支援の場での活用については表9に示した。活用内容としては、【保護者への支援・情報共有】が最も多く、【保護者と一緒に考えることでの支援の方向性の共通理解】を行ったり、ガイドを参考にしながら【子どもの主体性を尊重した支援】を試みたりしていた。また、ガイドを確認することで、【職員自身の知識の再確認】をしたり、【職員自身の支援の方向性の確認】をしたりしていた。特に、保育・幼児教育現場においては、直接的・継続的に子どもや保護者を支援する環境にあることから、職員自身の支援のあり方について不安に感じることも多く、ガイドを読むことで【自分だけではないという共感・安心感】を得ることができたり、「これでよかったんだ」と自己肯定することができたといった効果も確認できた。

施設内の支援者間での活用については表10に示した。活用内容としては、【職員間での情報確認・共通理解】が最も多く、多職種間、常勤・非常勤間での情報確認や共通理解に活用できることが示された。また、新人研修等、経験が浅い職員等に対する【職員の知識向上】にも活用できることが示された。子どもや保護者への支援においては、職員間全員の支援の方向性が一致していることが大切であるが、そのためにも、ガイドがあることで、それぞれの職員の考え方の方向性を一致させることができるとの意見が示された。ガイドにあるさまざまな支援事例等を読むことで、いろんな人がいろんな悩みを抱えながら支援している様子が伝わり、

同じような取組みをしている事例に対して
も共感的に読み、【自分だけではないという
共感・安心感】を、職員同士で感ずることが
できたことが示された。また、保育・幼児教
育施設においては、【食と保育の一体化】を
させた活動を展開するために、食育計画を
立てる際にも参考にできることが示された。
その他、【保護者向けアンケート作成時の参
考資料として引用】していた。

他施設との連携における活用については
表 11 に示した。今回、調査実施期間が短か
ったことなどから、他施設との連携におけ
る活用については実施できた施設が少なか
ったが、活用内容としては、【他機関との情
報確認・共通理解】が最も多かった。県の保
育連盟連合会の給食部会等で、共通理解の
ために活用しており、未実施の施設でも、そ
うした給食部会等での共通理解に活用した
いという意向を聞くことができた。その他、
【同一法人内の保育所での合同イベントで
の活用】をしたいという意向も示された。ま
た、【地域交流の場での保護者支援】や【子
育て広場での保護者支援】の他、【保護者向
け食育座談会の資料作成の際に引用】する
など、保護者支援の場での活用が実施され
ていた。なお、未実施ではあるが、今後【保
育所等の訪問指導の際の活用】もできるこ
とが示された。ガイドがあることで、多機
関・多施設での食生活支援について共通理
解を進める際に活用できることが示唆され
た。

2) 追加資料 1, 2 について (資料 12~15)

資料 1 については表 12, 13 に示した。わ
かりやすい点については、食具の持ち方、調
理形態、食べさせる姿勢など、図があるため

理解しやすく、こういう資料がほしかった
という意見が示された。

一方、わかりにくい点、改善してほしい点
については、舌の動きのイラストがあると
わかりやすいといった意見や、食具食べの
発達と支援についての追記がほしいといっ
た意見が示された。

資料 2 については表 14, 15 に示した。わ
かりやすい点については、楽しく食べる工
夫をしている具体例を知ることができて共
感できた点や、現場で困ったときにすぐに
確認できたり、他の人がどのように対応し
ているかがわかる点などが示された。また、
自分たちと同じように無理強いせずに楽し
く食べるための工夫をしている具体例を知
ることにより、自分の支援の方向性を再確
認できたこと、自分たちが行っている支援
がガイドにも記されていたことで、保育・幼
児教育現場での支援のあり方が認められた
ことがうれしかったという意見も示された。
母子保健現場からも、母親たちの困りごと
は全国一緒だということがわかり、自分の
支援の方向性に対して参考になったことが
示された。その他、母子保健の場では保育・
幼児教育現場での支援のあり方を知る機会
になったことが併せて示された。

一方、わかりにくい点、改善してほしい点
については、主菜と副菜を混ぜないと食べ
ない子どもへの支援についてや、噛まない、
詰め込み過ぎといった口腔に関する Q&A
について、生活リズムの改善や、朝食を摂取
しない家庭への支援について追記してほし
いといった意見が示された。

その他、肥満児への支援や、コロナ禍での
支援の工夫、りんごの切り方など、知りたい
内容について追記を望む意見が示された。

3. 支援ガイド案改訂点

以上の調査結果をふまえて、研究代表者、研究分担者、研究協力者による研究班会議で検討した結果、以下の方針で支援ガイド案を改訂した。改訂後の具体的な内容については、別添「幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援ガイド（確定版）」を参照されたい。

1) ガイド全体

インタビュー調査で挙げた「肥満児に対する支援例を入れてほしい」という意見に対しては、支援の方向性や、成長曲線に関する内容を含めたコラムを追加することとなった。

それ以外は、文言の統一（例：親と保護者が混在していたため「保護者」で統一、歯磨きは「歯みがき」に統一）、誤字・脱字の修正を行った。

2) 資料 1 乳幼児期における口腔機能の発達に対応した食の進め方

「口腔機能の発達」を示した段に、口腔内のイラストを追加することにより分かりやすくなったとの意見が多く挙げた。一方、食事時の口唇や舌の動きについても加えて欲しいとの要望に応え、典型的な動きを獲得する乳児期の発達にあわせた舌と口唇の動きに関するイラストを追加した。

「食べる機能の発達」に合わせて、下段に「支援の例」を箇条書きで示していたが、より具体的な記述がほしいという意見があったことから、コラムとして「幼児期前半の食具食べ（スプーン）の発達と支援」を追加し、資料 2 に「箸をなかなか上手に持つことができません、どうしたらいいですか。」の Q&A を追加し、スプーンが上手になってからフォークを使う理由など、インタビュー

や質問紙調査で挙げられた意見のうち、資料 1 には追記しきれない内容を網羅できるようにした。また、「食べる機能の発達」を示した段の食具を持つ手のイラストの位置がやや低月齢ではないかとの指摘があり、コラムとの整合性も踏まえて間隔を広げてチャートの右（後の月齢）にずらした。なお「支援の例」「調理形態・料理の例」「食べにくい食材と対応例」の記載事項については、コラムとの文言統一も行った。

その他、「食事の支援」の段に記載された「食事のマナー」に具体例を追加し、歯が抜けているときの支援例の表記修正や調理形態を追加した。また、果物の「薄切り」の表記に対し、事故防止に関する指摘があったことから、「薄切り」の表現を「子どもの発達に応じた大きさ・厚さ」に改めた。修正を加えた資料 1 は、巻末に別添資料として示した。

資料 1 のチャートは一部から情報量が多すぎるとの意見もあったが、一つの表にまとまっていて見やすいとの意見が多かった。支援ガイド確定版を健やか親子 21 のウェブサイト (<https://sukoyaka21.mhlw.go.jp/>) の「参考資料」→「乳幼児期」の中に、当研究班の成果物として掲載することとなり、拡大して印刷することへも対応が可能になった。

3) 資料 2 幼児期の子ども・保護者の栄養・食生活支援に関する Q&A（表 16）

資料 2 の Q&A に追加検討した結果は表 16 に示した。

まず、Q が探しやすいよう、p.13 の図 22 に基づき、【食事・間食・飲料】、【食事への関心・行動】、【生活】、【その他】に分類して配置した。

全体的に見やすくなるように見出しをつ

け、見出しの文字を大きくし、パラグラフごとに分けて記述した。また、参考文献がすぐに参照できるよう、参考文献の文字の色を変更し、URL を付した。文字の大きさ等を調整し、イラストを挿入することで、読みやすくした。既に事例や本文に記載済みの内容については変更せず、新しく収集できた事例については、適宜 Q&A に追記した。なお、卒乳に関する支援についての記載の希望があったが、本ガイドでは掲載しないこととした。

主な改訂点は以下の通りである。

Q1 子どもの気持ちを確認しながら食事を進める際に小皿に少しずつ取り分けて、子どもの食べる意思を丁寧に確認しながら進める事例について追記した。また、イラストがあった方がわかりやすいという意見があったことから、イラストを追加した(食材とかかわる機会を作っている様子)。また、メニューのネーミングの工夫については、アレルギー対応の観点から、料理名から原材料がわかるようにするという考え方もあるため、その旨但し書きを追記した。

Q2 食べられる食材が少ない子どもへの支援として、食べられる食材の食感に、苦手な食材を似せて、食べてみるかどうか確認しながら進めたり、苦手な食材を小さく切るなど、他の食材と混ぜながらスモールステップで進める事例を記した。また口腔機能に合った調理形態かどうかについては資料 1 を確認することについても記した。

Q3 ごはんとおかずが一緒になっているメニューが苦手な子どもへの対応について支援事例を追記した。

Q4 ごはんとおかずを混ぜないと食べられない子どもへの対応について支援事例を追記した。

Q5 小食で食べムラのある子どもへの対

応について、活動量を増やすことなど、支援事例を追記した。

Q6 保護者から小食や偏食について相談されたときの対応について、焦らずできることからやればよいことや、園で子どもがよく食べたメニューを伝えることなどについて追記するとともに、イラストも挿入した。

Q7 子どもの小食や偏食について、問題意識を持たない保護者への対応について、保護者とのコミュニケーションの取り方の工夫も含めて記した。

Q8 食べる意欲が少ない子どもへの接し方について、子どもの好きな遊びや興味関心のあるものに着目したり、食環境を変えてみるなど、食だけにとどまらず、生活全体からのアプローチの方法について記した。

Q9 園で一緒に食べられない子どもに対する支援について、子どもが落ち着いて食べられる場所を探すなど、子どもの気持ちに寄り添った支援をすることで食べられるようになった事例などを記すとともに、イラストも挿入した。

Q10 丸のみ・詰め込み食などの食べ方の悩みについて、歯の萌出状況に合わせた調理形態にすることや、食べることをせかさないようにするなど、支援の方法について追記した。

Q11 食具の使い方について、子どもが扱いやすい箸についてや、正しい箸の持ち方についてなど、イラストを挿入しながらわかりやすく追記した。

Q12 自分で食べ物をかじり取るための支援について追記した。

Q13 生活リズムの乱れや朝食欠食等の支援について、園での子どもの様子を具体的に保護者に伝えるなど、支援の方法について追記した。

Q14 朝から食欲がなく朝食を食べられない子どもや、朝食をお菓子ですませている家庭への支援について追記した。

Q15 コロナ禍での食生活支援について、保護者への支援のあり方について追記した。

Q16 コロナ禍で職員がマスクを着用している中で、子どもに囁む様子を伝える支援の方法について追記した。

修正を加えた資料 2 は、巻末に別添資料として示した。

D. 考察

本研究の結果より、母子保健や保育・幼児教育の施設において、支援ガイド案は、子どもや保護者に対する支援の場や、施設内の支援者間での情報共有等の場で、活用可能なガイドであることが確認できた。一方、試行的運用の実施期間が短く、他施設と連携した事業を検討・実施する際の活用については十分に検討できなかった。

また、支援ガイド案全体や資料 1 及び 2 の内容について、細かな内容も含めて、改善すべき点や加筆した方がよい点があることがわかり、具体的な改訂点が明らかとなった。資料 2 については、よく見られる困りごと (Q) に対する支援・対応の例 (A) の事例を数多く抽出することができた。これらの意見や事例を支援ガイド案の改訂に反映させることにより、さらに幼児期の栄養・食生活支援に日常的に直接的に関わる母子保健や保育・幼児教育の場の支援者の視点を入れたガイドにすることに貢献できたと考えられる。

E. 結論

本研究より得られた、幼児期の栄養・食生活支援に日常的に直接的に関わる母子保健や保育・幼児教育の場の支援者の方の意見

は、支援ガイド案の改訂版である「幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援ガイド(確定版)」(別添資料)に反映された。

参考文献

1) 厚生労働科学研究費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業(健やか次世代育成総合研究事業)「幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援ガイドの開発に関する研究」(研究代表者:石川みどり)平成 29 年度～令和元年度総合研究報告書, 2020

2) 厚生労働科学研究費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業(健やか次世代育成総合研究事業)「幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援ガイドの効果的な展開のための研究」(研究代表者:衛藤久美)令和 2 年度総括・分担研究報告書, 2021

F. 健康危機情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

・Mieko Suzuki, Yoko Kondo, Kikuko Nito. A study on dietary education in Japanese preschool facilities. Poster presentation #6563, The 32nd International Congress of Psychology 2020+. Virtual July 18-23, 2021.

・鈴木美枝子, 近藤洋子, 仁藤喜久子, 衛藤久美. 幼児の偏食等の食の困りごとに対する保育現場での食生活支援のあり方の検討

ー「幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援ガイド」の効果的な展開に向けて
ー. 第 68 回日本小児保健協会学術集会,
1P14, 小児保健研究 第 68 回日本小児保健協会学術集会講演集 第 80 巻, 2021,
p.123, WEB 開催 2021 年 6 月 18-20 日.

・船山ひろみ, 茂呂歩実, 朝田芳信. 幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援ガイドの開発 ―口腔機能の発達に対応した食の進め方について―. 第 60 回日本小児歯科学会大会, 幕張, 千葉, 2022 年 5 月 19-20 日 (開催予定).

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得
2. 実用新案登録
3. その他

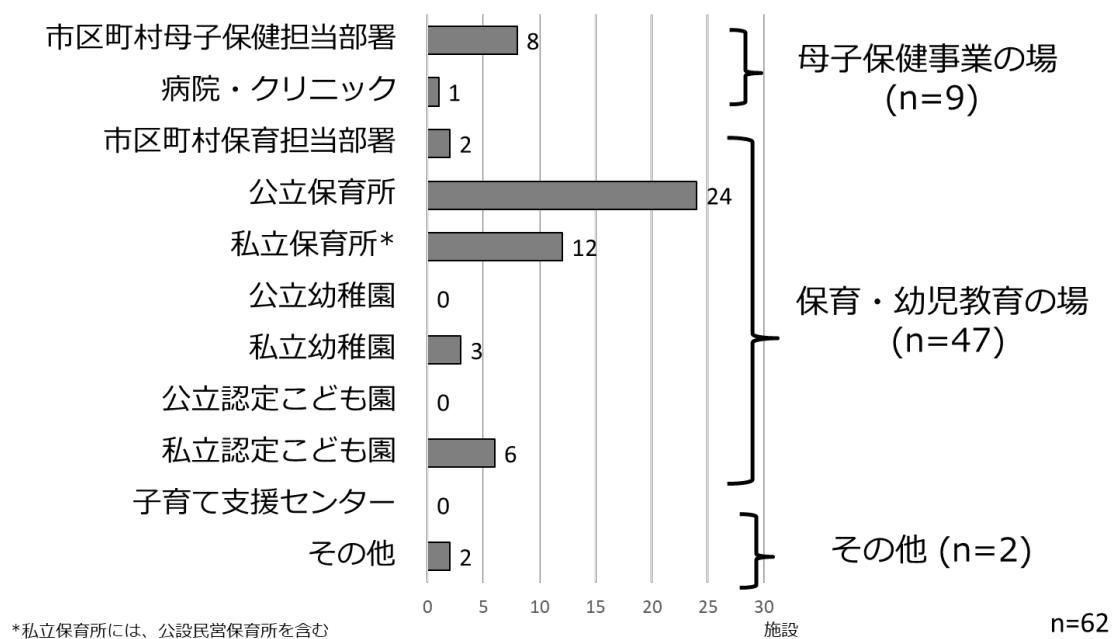


図 1 質問紙による評価：研究協力施設

表1 試行的運用における研究協力施設数

施設種類		質問紙調査		インタビュー
		発送数	回収数	回答数
母子保健施設	病院・クリニック	2	1	0
	市区町村母子保健担当部署	8	8	5
	小計	10	9	5
保育・幼児 教育施設	市区町村保育担当部署	2	2	1
	公立保育所	24	24	4
	私立保育所	13	13	6
	私立幼稚園	3	3	1
	私立認定こども園	6	6	3
	小計	48	48	15
その他		2	2	0
合計		60	59	20

n: 施設数

表2 子どもや保護者に対する支援の場における活用(質問紙調査結果)

項目		全体 (n=58)		母子保健 施設 (n=10)		保育・幼児 教育施設 (n=48)		P
		人数	%	人数	%	人数	%	
活用状況 ¹⁾	活用しなかった	14	24.1%	3	30.0%	11	22.9%	0.691
	活用した	44	75.9%	7	70.0%	37	77.1%	—
	子どもの生活を把握したり、問題だと感じる行動を分析する際に参考にした	28	48.3%	3	30.0%	25	52.1%	0.301
	保護者との個別面談・個別相談の場において、保護者が抱える子どもの食事の悩み事に関する助言内容の参考にした	23	39.7%	7	70.0%	16	33.3%	0.040
	保護者との個別面談・個別相談の場において、親子の食のどこに問題があるかを確認する際に活用した	7	12.1%	2	20.0%	5	10.4%	0.592
	個別指導や相談の場において、子どもの食に関する課題を確認する際に参考にした	16	27.6%	3	30.0%	13	27.1%	1.000
	子どもの食への関心があまりない保護者に対して、具体的な支援方法を検討する際に参考にした	8	13.8%	2	20.0%	6	12.5%	0.616
	おたよりやリーフレットの内容に、支援ガイド案の内容を取り入れた	9	15.5%	1	10.0%	8	16.7%	1.000
	保護者会での話題提供の内容に、支援ガイド案の内容を取り入れた	1	1.7%	0	0.0%	1	2.1%	1.000
	その他	2	3.4%	1	10.0%	1	2.1%	0.318
活用した職種 ²⁾	管理栄養士・栄養士	38	86.4%	7	100.0%	31	83.8%	0.568
	保健師	1	2.3%	1	14.3%	0	0.0%	0.159
	看護師	1	2.3%	0	0.0%	1	2.7%	1.000
	保育士	10	22.7%	0	0.0%	10	27.0%	0.177
	幼稚園教諭	1	2.3%	0	0.0%	1	2.7%	1.000
	保育教諭	3	6.8%	0	0.0%	3	8.1%	1.000
	調理員	3	6.8%	0	0.0%	3	8.1%	1.000
	医師	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	—
	歯科医師	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	—
	歯科衛生士	1	2.3%	1	14.3%	0	0.0%	0.159
	施設長・副施設長	7	15.9%	0	0.0%	7	18.9%	0.575
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	—
役立ったか ²⁾	とても役立った	16	37.2%	5	83.3%	11	29.7%	0.019
	少し役立った	24	55.8%	1	16.7%	23	62.2%	
	あまり役立たなかった	3	7.0%	0	0.0%	3	8.1%	

1) 本項目への回答が得られた全施設を100%として、割合を算出した。

2) 「活用した」施設を100%として、割合を算出した。

群間差の検定: χ^2 検定又はフィッシャーの正確確率検定

表3 施設内の支援者間での情報共有の場等における活用(質問紙調査結果)

項目	全体 (n=58)		母子保健 施設 (n=10)		保育・幼児 教育施設 (n=48)		P
	人数	%	人数	%	人数	%	
活用状況 ¹ 活用しなかった	22	37.9%	5	50.0%	17	35.4%	0.481
活用した	36	62.1%	5	50.0%	31	64.6%	—
多職種の支援者が幼児の栄養・食生活支援に関する情報共有をする際に、支援方針の確認や共有を行う際の資料とした	17	29.3%	1	10.0%	16	33.3%	0.253
多職種の支援者が個人、施設内、地域内における子どもの食の課題について整理する際、具体的な支援内容を検討する際に活用した	5	8.6%	0	0.0%	5	10.4%	0.575
園や地域内での食育の計画を立てたり、食育の内容を検討する際の参考にした	15	25.9%	0	0.0%	15	31.3%	0.050
常勤職員と非常勤職員が実施する栄養相談において、支援ガイド案の内容を参考にすることで、支援にむらがないようにした	6	10.3%	4	40.0%	2	4.2%	0.006
新人研修や職員研修など、研修会の資料として活用した	1	1.7%	0	0.0%	1	2.1%	1.000
職員会議で話をする際の資料とした	8	13.8%	0	0.0%	8	16.7%	0.328
その他	4	6.9%	1	10.0%	3	6.3%	0.541
活用した職種 ²⁾ 管理栄養士・栄養士	32	88.9%	5	100.0%	27	87.1%	1.000
保健師	1	2.8%	1	20.0%	0	0.0%	0.139
看護師	7	19.4%	0	0.0%	7	22.6%	0.559
保育士	20	55.6%	0	0.0%	20	64.5%	0.012
幼稚園教諭	1	2.8%	0	0.0%	1	3.2%	1.000
保育教諭	5	13.9%	0	0.0%	5	16.1%	1.000
調理員	8	22.2%	0	0.0%	8	25.8%	0.566
医師	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	—
歯科医師	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	—
歯科衛生士	1	2.8%	1	20.0%	0	0.0%	0.139
施設長・副施設長	11	30.6%	0	0.0%	11	35.5%	0.295
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	—
役立ったか ²⁾ とても役立った	11	30.6%	3	60.0%	8	25.8%	0.193
少し役立った	23	63.9%	2	40.0%	21	67.7%	
あまり役立たなかった	2	5.6%	0	0.0%	2	6.5%	

1) 本項目への回答が得られた全施設を100%として、割合を算出した。

2) 「活用した」施設を100%として、割合を算出した。

群間差の検定: χ^2 検定又はフィッシャーの正確確率検定

表4 他施設と連携した事業を検討・実施する際の活用(質問紙調査結果)

項目	全体 (n=55)		母子保健 施設 (n=10)		保育・幼児 教育施設 (n=48)		P
	人数	%	人数	%	人数	%	
活用状況 ¹ 活用しなかった	45	81.8%	8	80.0%	37	82.2%	1.000
活用した	10	18.2%	2	20.0%	8	17.8%	—
他施設・他機関と連携して食育を行ったり、支援を行う際に参考にした。	6	10.9%	2	20.0%	4	8.9%	0.298
他施設・他機関と連携して食育を行ったり、支援を検討する際に参考にした。	3	5.5%	0	0.0%	3	6.7%	1.000
その他	2	3.6%	0	0.0%	2	4.4%	1.000
連携先 ²⁾ 市区町村母子保健担当部署	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	—
市区町村保育担当部署	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	—
病院・クリニック	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	—
公立保育所・幼稚園・認定こども園	1	11.1%	0	0.0%	1	14.3%	1.000
私立保育所・幼稚園・認定こども園	3	33.3%	0	0.0%	3	42.9%	0.500
子育て支援センター	1	11.1%	1	50.0%	0	0.0%	0.222
児童館	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	—
小・中・高校	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	—
大学	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	—
農家	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	—
食品企業	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	—
スーパー等小売店	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	—
その他	4	44.4%	1	50.0%	3	42.9%	1.000
役立ったか ²⁾ とても役立った	3	42.9%	1	50.0%	2	40.0%	1.000
少し役立った	4	57.1%	1	50.0%	3	60.0%	
あまり役立たなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	

1) 本項目への回答が得られた全施設を100%として、割合を算出した。

2) 「活用した」施設を100%として、割合を算出した。

群間差の検定: χ^2 検定又はフィッシャーの正確確率検定

表5 資料のわかりやすさ(質問紙調査結果)

項目	n=57					
	全体 (n=57)		母子保健施設 (n=10)		保育・幼児 教育施設 (n=47)	
	人数	%	人数	%	人数	%
資料1						
わかりやすい	54	94.7%	9	90.0%	45	95.7%
わかりにくい	3	5.3%	1	10.0%	2	4.3%
資料2						
わかりやすい	52	92.9%	9	90.0%	43	93.5%
わかりにくい	4	7.1%	1	10.0%	3	6.5%

無回答は除いて集計した

表6 資料の「わかりにくい」内容と支援ガイドへの反映(質問紙調査結果)

内容	ガイドへの反映
資料1 乳幼児期における口腔機能の発達に対応した食の進め方(n=3)	
・「1歳までははちみつは使用しない、牛乳の飲用は1歳以降可」の文は、「1歳までは、はちみつ、牛乳の飲用不可」としてはどうか。	「1歳までは、はちみつ、牛乳の飲用不可」に修正
・「スプーンが上手になってからフォークは使う」のスプーンが上手とはどの程度のことを示しているのか。食材によってスプーンとフォークの使用を変えている。	スプーンより先にフォークを使うと、喉の奥に入れてしまう危険性があるのでこのような記載にしている。新規コラムで追加説明する。
・「食事のマナーが身につくように…」の食事のマナーが具体的に何を指しているかわからない。	括弧書きで例を加える 食事のマナー(食事前の手洗いや挨拶、正しい姿勢や食具の持ち方、遊びながら食べないなど)
・1ページにおさめてほしい	1ページに収める、あるいは内容を減らすのは難しいので、このままとする
・年齢だけではなく月齢を示してほしい	あえて何か月と書いていないので、このままとする
資料2 幼児期の子ども・保護者の栄養・食生活支援に関するQ&A(n=4)	
・量が多い(文章が長い、情報量が多い、文字が多い)	文章の精査、行間の調整、参照箇所のみ文字を小さくするなど、見やすさの工夫をする
・参照先が多いと読みづらい	
・文字が小さい	
・行間をあけてほしい	
・イラストを加えてほしい	イラストを加える

表7 資料2のQに対する対応例(質問紙調査結果)

No.	A(対応例)	施設種類	ガイド改訂への反映
Q1	大人と一緒に目の前で同じ物を食べて「美味しい」と言って食べる。子どもは食べてみようとする。一口でも口にしてみる姿が見られた。	保育・幼児教育	○ 資料2に加筆
	担任保育士が給食室と連携し、毎日別皿を1枚用意した苦手な食材ばかりで食事に手をつけなかったのを、食べられそうな食材を取り分け別皿に移して食べることを促し、一口が二口と最終的には一年ほどかかったが今では完食できるようになった。	保育・幼児教育	
	保護者から栄養士が相談を受けた。1才の子どもが野菜を食べないとの相談。発育(身体)状況に問題ないことを確認したうえで、小さく切る、他の食材と混ぜるなどの工夫をしてみる、無理強いしないこと、食べなくてもメニューに取り入れる等のアドバイスを。学年が上がるにつれ他の子どもたちと同じように野菜が食べられるようになった。	保育・幼児教育	
	保育者と栄養士で支援を行った。苦手な食材の栽培を行った。土を作るところから始め、毎日水やりをし、収穫し、調理をした。自分たちで育てたことの喜びを感じ、食べられるようになった。子どもたちが苦手な食材が出てくる絵本を子どもたちに読み、その日の給食に、その食材が入っているごはんを提供した。苦手な食材がかっこいいヒーローになる話だったので、そのヒーローに影響され、食べる子どもが多かった。	保育・幼児教育	
	自分で食べる量を決める→3.4歳児、担任が声を掛ける。5歳児、自ら担任に伝える	保育・幼児教育	
	(温かい給食の提供と量の調整)2園が統合し園児数が増え(164名)、調理室での個人対応に限界を感じていたが、メインのおかずは調理室で配食し、主食はおひつ、汁物は食缶を使用し(3～5歳)クラスで配食することで、個人への配慮ができるようになった。同時に温かい給食の提供にもつながり、残菜は少なくなった。おかずについては、クラス配膳時、担任が調整している。	保育・幼児教育	施設の個別性が高い事例のため掲載しない
	野菜が苦手な子どもは、野菜を育てたり、クッキングなどで野菜に興味をもって食べるようになった。	保育・幼児教育	△ 既に事例に記載済み
	食材の仕込みの手伝い(皮むき、ちぎり)、少量盛り付ける→ちよつとでも食べられたら、保育士と栄養士が子どもと一緒に喜び合う	保育・幼児教育	
	野菜栽培の経験から 3歳児野菜嫌いな女子、味噌きゅうりをバクバク食べる	保育・幼児教育	
	新入園児の中には、環境の変化も重なってごはん以外は食べられない子の姿があった。ごはんの量を少し増やしたり、給食室と連携してふりかけを用意してもらうなど一か月位までその様にしながら無理強いをしないようにしました。保育園や保育者と関係が安心できるものになってくると、本人に確認しながら量を調節し、少しずつ主菜・副菜も食べられるようになった(4才児の例)。	保育・幼児教育	△ 既に偏食コラムに記載済み
Q2	徐々に少量から配膳した。3年かけて少量食べられるようになった	保育・幼児教育	
	保護者と一緒に食べる事をすすめている。おいしく食べる姿を見せる事で安心して食べる様になる子もいる。コロナ禍の前、保育園でも保育士と一緒に食べ「先生と同じだね」と声かけすると食べる量が増える子がいた。	保育・幼児教育	○ 資料2に加筆
	食わず嫌いの子に対して、揚げた豆の衣を小さくして口に入れてあげたら「おいしい」と言っただので、豆を分割して少しずつ口に運んであげたら食べられたので、自分で食べたらずと様子を見ていたら結果おかわりをして食べていた。見た目で判断したりする人が多いので、小さくあげて「赤ちゃん○○」等と言いながら少しでも口に入れてもらう様になると、おいしく食べる、ということが多い。	保育・幼児教育	
Q3	カレーなど、ごはんとカレーに分けて盛り付ける	保育・幼児教育	○ 資料2に加筆
	保育士・栄養士・調理員がかかわり、別々に分けて盛りつけ、くり返し→食べられるようになってきたら合わせて盛る→自信を持つようになった、食べる量が増える	保育・幼児教育	
	わけられるものはわけて配膳した。時折少量混ぜたりかけたりしてみる。	保育・幼児教育	
	ジャムパンやツナサンドが苦手な子に、食パンと中身を分けて盛りつけて、子どもが興味を持ったタイミングで少しつけて食べていたらサンドの状態でも食べられるようになった。	保育・幼児教育	
Q4	保育士と一緒に(2人)で食べる、場所を変えて食べる、みんなと離れて食べる(無理しない)→少しずつみんなの近くで食べられるようになった(今では一緒に食べている)	保育・幼児教育	○ 資料2に加筆
	周りの子どもと一緒にお昼ごはんが食べられない園児について、食事が食べられないことが問題視されたが、新入園児だったため、園での生活自体なれていなかった事が理由だったケースがあった。保育士、栄養士、保護者と食事量を情報共有し、不足の無いようにした上で、見守る内に改善し、少しずつ食事量も増えた。	保育・幼児教育	
	担任以外の先生についてもらい、保育室の落ち着いた場所に机を置きその場で食べる事により改善された。	保育・幼児教育	
Q5	栄養士が子どもの楽しく食べる様子(ムラがありますが)を動画撮影し、保護者に食育サロンを開催し(親子参加)見ていただいた。家庭と全く違う子どもの様子に、保護者が食事の仕方や内容を改善したいと話してくれた。楽しく食べる工夫も伝えることが出来、参考にしていただけたようである。子どもはその後食事量も一定になりつつあり、楽しんで食べている。	保育・幼児教育	○ 資料2に加筆
	保育士と栄養士が、食べられる分だけで、きりあげる、長い目で見る(声かけ、見守る)→日によって食べられる量が増える	保育・幼児教育	
	その時の様子、状態に合わせて量を調整して配膳した	保育・幼児教育	

Q番号は、支援ガイド案Ver2に掲載したQ番号である。

表7 資料2のQに対する対応例(質問紙調査結果)つづき

No.	A(対応例)	施設種類	ガイド改訂への 反映
Q6	健診時の栄養相談で偏食の相談で、嫌いだからと言って食卓に出さないとその食材を知らないままになるため様子をみながら「食べてみる?」と声かけをし、食べられたら「ほめる」と自信がもてるようにしていった。	母子保健	○ 資料2に加筆
	保育士や栄養士が園でよく食べたメニューを伝えた。保護者も家でその食材や献立を出して、少しずつ食べられるようになった。	保育・幼児教育	
	完璧を求め、かつ自罰的な母親に対し、担任が現在の母のがんばりを評価し、ねぎらうことで、余裕をもって子どもと対応できるようになった。	保育・幼児教育	
	様々な調理法や味付けを試してみましょう。	保育・幼児教育	
	家庭の様子をきいて園で食べたメニューを伝える。園での様子を伝える。なかなか家では改善されない、園では改善が見られる	保育・幼児教育	
Q7	1歳児であるが家庭ではミルク中心という状況。嘱託医と連携し、家庭は家庭、園は園と割り切って対応。著しい進展はないが、少しずつ食べるという姿が見られるようになった。	保育・幼児教育	個別性が高いため掲載しない
Q8	保護者にまずは早起きだけががんばってもらう(早寝は難しいため) 他のリズムは少しくらい乱れていても早起きすることで日中の活動が増え、結果として空腹を感じたり早く眠くなって早寝につながったりした	保育・幼児教育	○ 資料2に加筆
Q1,2,3,6,7,8	どのQに対しても、給食会議等で話し合い、保育者と給食スタッフで連携して行う。目に見える効果がすぐに出る訳ではないが、総合的に長い時間をかけて見守っていくことが大切と考えています。	保育・幼児教育	△ 既に本文p.29に記載済み
Q5,6	乳児クラスの個人ノートへの質問に担任と相談しながら栄養士からのアドバイスとして回答した	保育・幼児教育	乳児期の内容のため掲載しない

Q番号は、支援ガイド案Ver2に掲載したQ番号である。

表8 資料2に追加した方がよい内容(質問紙調査結果)

内容	施設種類	カテゴリー	ガイド改訂への反映
咀嚼力が低下していると思う。かめない子に対しての指導に悩む。丸飲みになりがちな子も多い。	保育・幼児教育	噛めない/噛まない子どもへの支援	○ 資料2に加筆
かまない、過食、早食いについて	母子保健		
よくかまない、つめこみすぎなど口腔系に関するQ	保育・幼児教育		
保護者がこれだけの栄養量を食べさせなくてはと追いつめられている場合の支援	母子保健	保護者への支援	○ 資料2に加筆
保護者が食に興味がないと判断してしまう事へのアプローチ	母子保健		
朝食を食べていない家庭やおかしですませている家庭にはどのように対応すればよいでしょうか	保育・幼児教育	朝食を食べない・菓子で済ませる家庭への支援	○ 資料2に加筆
Q4について。みんなと一緒に食事をとれない子はいた。その子は事務所にいと安心して食事がとれた。その子にとって安心できる場所、安心できる人など、園全体で考えていくことの大切さを振りかえる。	保育・幼児教育	既存のQに対するご意見	○ 資料2に加筆
食に課題をもつ子への声かけ(前向きな)例がもう少し多いと若い職員とも共有しやすい。 ①よく噛まない子(早食い)、②小食の子、③苦手な食材の多い子⇒②③とくに子によっても反応ちがうので難しいと感じている。	保育・幼児教育	ご意見	○ 資料2に加筆
肥満の子どもに対する栄養相談の具体例など 本園では、肥満に該当する子どもの保護者に食事内容や生活リズムを記入してもらう。アンケートを実施しているが、アンケートに記載された内容では肥満につながるような要素が見付けられず、どのように支援して良いか困っているため他施設、他機関の事例を参考にしたい。	保育・幼児教育	肥満児への対応	○ 肥満児支援コラムを追加
肥満児への対応などがあればとても参考になる。	保育・幼児教育		
限られた食材しか食べないという相談の場合、どのようなアドバイスを声かけをしたら良いか	母子保健	限られた食材しか食べない子どもへの支援	△ 資料2に記載済み
各年齢区分ごとに提供できる・できない食材等の記載があるとよりよい。(のどに詰まらせるリスクの高い食材,調理形態等、集団での食事では危険なものなどあれば)	保育・幼児教育	ご意見	× 区分ごとの記載をすることは難しい
口腔機能の発達を促すあそびはありますか？	保育・幼児教育	質問	○ 資料2に食具使用のための手指発達を促す遊びとして加筆

表9 インタビュー内容 I. 支援ガイド活用について 1. 子どもや保護者に対する支援の場における活用

参考頁1 参考頁2 参考にした箇所 子どもや保護者に対する支援における活用										
1 始	1終	2始	2終	図・Q&Aなど	内容	対象年齢	カテゴリー	上位カテゴリー	実施・未実施	施設種別
2	10				健診などで母親たちから相談があったり、町内の子育て支援センターでの栄養相談でも（健診よりもさらにざくばらんに母親たちからの直接の声が聞ける）、保健センターで実施している「健康なんでも相談」（2回/月）で前半部分のアンケート結果が、母親たちから頂く意見と同じような内容で、これを読んで、助言をしたり、自分が助言していたことも、これで良かったんだなという、確認が出来た。		健診や子育て支援での対応	職員自身の支援の方向性の確認	実施	母子保健
2	10			資料1	1歳の歯科相談と1歳6か月健診の際に食事だったり、離乳食の悩み相談をうけているが、食べない子が、一番大きい問題で、逆に、どれだけまで食べさせていいか、食べ過ぎちゃうという方も少数派だがいる。その時にアンケート調査結果と資料1のところが役に立った。特に資料1は具体的な食材もいっぱい書いてあったので、今の母親たちは曖昧は求めてなくて、本当にはっきりとした答えを求めている方が多いので、しっかり書いてくれていると、母親たちは分かりやすいと感じた。		健診や子育て支援での対応	保護者への支援・情報共有	実施	母子保健
2	10			図2、図10	肥満の園児を割り出して、その保護者の方に、食事調査を行った歳に、「2. 幼児期の栄養・食生活を巡る状況」の資料がとても参考になった。1週間分のメニュー、どういったお食事をされていますかとか、その生活の様子を一応アンケートを行い、7名中4名から回答を得たが、その際のアドバイスに就寝時刻、朝食を必ず食べる子どもの割合などを活用した。しかし、アンケート内容からは、肥満の原因が解明できず、とくに関心のない保護者への対応に苦慮している。他の園での対応事例などが知りたい。	7歳	肥満児への対応	保護者への支援・情報共有	実施	保育・幼児教育
11				図20	「朝ごはんのときに食べない」「ご飯しか食べない」といった保護者からの相談があったときに、p.11の図20などを参考に「他のお母さんたちも同じような感じで困っているみたいみたいですよ」といった話をしたところ、「他のお子さんも困っているケースがあるんだ」ということが保護者に伝わり、「私だけじゃないんだ」と捉えることができるようになった。直接的な解決にはなっていないかもしれないが、気長に構える大切さに気付くなど、保護者の不安感を和らげることにはつながったのではないかなと思う。	0歳	朝食を食べない子どもへの対応事例	自分だけではないという共感・安心感	実施	保育・幼児教育
13				図22	配慮をしなければいけない子どもが何人かいて（2歳1人、3歳2人。合計3名）、その嚥下の機能だったりとか障害とか、毎月献立をその子に専用立てしているが、そういった中で改めてその子どものかむ機能だったりとかどこを見たらいいのかとかなどの確認事項として活用。自分の視点的に細かく見ることができた。保育士を介して保護者にも確認したりしている。結果としてもう少し活用できたかも知れないと思っている。	3歳	配慮が必要な子どもへの対応	職員自身の知識の再確認	実施	保育・幼児教育
13				図22	試行的運用機関が短く、活用できなかった。健診業務や出前講座（保護者に対して子どもの食事の状況の把握や支援する機会）で活用できそうである。		健診や出前講座での支援	保護者への支援・情報共有	未実施	母子保健
14	14			コラム 口腔の発達と歯磨きのポイント	【コラム】について、歯磨きのことについては保護者からよく質問されるので、なかなか歯を磨かせてくれないという保護者に対して、担任とコラムの歯磨きのポイントのところを見ながら内容を確認し、担任を通して保護者に伝えた。具体的には歯磨きをすごく嫌がる場合には、ブクブクうがいだけでもしっかりする習慣をつけましょうという形で伝えている。	1歳以上	歯磨き指導	保護者への支援・情報共有	実施	保育・幼児教育
14	14			コラム 口腔の発達と歯磨きのポイント	【コラム】について、保健だよりで保護者に周知した。		歯磨き指導	保護者への支援・情報共有	実施	保育・幼児教育
14	14			コラム	ちょうど0歳児クラスで、歯が生えたところで、保護者の方がミルクとの兼ね合いで「虫歯が気になるわ」という相談があったので、「歯磨きのポイント」の内容に基づき助言した。	0歳	保護者への支援・情報共有	保護者への支援・情報共有	実施	保育・幼児教育
16					「1歳ごろにコップで飲む練習をしましょう」のところが、「自ら」というのが入ったほうが分かりやすい。		ご意見	子どもの主体性を尊重した支援	ご意見	母子保健

表9 インタビュー内容 I. 支援ガイド活用について 1. 子どもや保護者に対する支援の場における活用(つづき)

参考頁1 参考頁2 参考にした箇所 子どもや保護者に対する支援における活用										
1 始	1 終	2 始	2 終	図・Q&Aなど	内容	対象年齢	カテゴリー	上位カテゴリー	実施・未実施	施設種別
18	19	27	28	偏食コラム	朝起きるのがとても遅い子どもであるので、朝起きる時間などについても、母親と一緒にもう一度見直すことにした。また「どうしたら楽しく食事に向かえるか、おなかがすいたと思って食事に向かえるか」というところを一緒に考えるようにした。また、食事に対して興味がなくても、みんなで一緒に同じ食事を、その場に出すことを大切にしていこうという話になった。 保護者と一緒に考えるようにしたことで、保護者の方も、少しずつだけれども、早く起きることを少し努力してくれるようになった。	2歳	小食の子どもへの対応事例	保護者と一緒に考えることでの方向性の共通理解	実施	保育・幼児教育
24	25			幼児健診の問診票・栄養・食生活の困りごとの項目の例	p.24の「心配事の項目の例」では、同じようなことで困っていることが確認でき、p.25「②支援者が保護者の心配事に対して行った支援内容」もとても参考になった。例えば「9 子の食べ方(例:手づかみ食べ)の特徴を理解してもらう」にある手づかみ食べの重要性について、保護者には発達段階の一部として理解していただくように説明している。	0,1歳	食事の心配事への対応	保護者への支援・情報共有	実施	保育・幼児教育
24	25			幼児健診の問診票・栄養・食生活の困りごとの項目の例	p.24の「心配事の項目の例」では、同じようなことで困っていることが確認でき、p.25「②支援者が保護者の心配事に対して行った支援内容」もとても参考になった。コンビニ食やカップラーメンに偏る家庭には、例えば「6 親に食事作り力を向上してもらう」にあるように、一品だけでも手作りを加える、購入した食材でもお皿に移し替えるなどの助言を行い、乳幼児期の食習慣の大事さを伝えた。	全	食事の心配事への対応	保護者への支援・情報共有	実施	保育・幼児教育
27	28	65		資料2Q&A1	にんじんが大嫌いであったが、母親から「煮たじゃがいもは食べる」という話があり、それをヒントに、にんじんをじゃがいもと同じような柔らかさになるようにスプーンでつぶして与えてみたところ、にんじんが食べられようになり、1か月後には、「もうつぶさなくていいよ。」と本人が言い、つぶさなくてもにんじんが食べられるようになった。そのとき、子ども自身が「僕の心がもう大丈夫と言っているからつぶさなくても食べられる」と言い、偏食の解決のプロセス(p.27,28のコラム)を経て、子ども自身が「大丈夫」と思えたところで食べられるようになった事例である。 母親と情報共有する中で、ヒントを得た担任(保育者)がスプーンでつぶすという工夫を続けることで、解決につながった。母親も、子どもの偏食の強さを気にしてはいるものの、どうにもできないと諦めモードでいたところであったため、保護者と保育者でともに大変喜んだ事例であった。	5歳	保護者からの情報提供をもとに偏食対応した事例	保護者と一緒に考えることでの支援の方向性の共通理解	実施	保育・幼児教育
27	28			コラム 保育・幼児教育現場における子どもの偏食対応	今まで食べられたものの共通点を園と家庭と一緒に探していこうと提案した。ガイドを参考に担任と保護者が方向性を確認した。	2～3歳	保育者の知識向上	保護者と一緒に考えることでの支援の方向性の共通理解	実施	保育・幼児教育
27	28			コラム 保育・幼児教育現場における子どもの偏食対応	【コラム】について、保健だよりで保護者に周知した。		偏食対応	保護者への支援・情報共有	実施	保育・幼児教育
30	61				食べない子どもへの対応に、事例を活用していきたい。		食べない子どもへの対応	保護者への支援・情報共有	未実施	保育・幼児教育

表9 インタビュー内容 I. 支援ガイド活用について 1. 子どもや保護者に対する支援の場における活用(つづき)

参考頁1	参考頁2	参考にした箇所	子どもや保護者に対する支援における活用							
1 始	1終	2始	2終	図・Q&Aなど	内容	対象年齢	カテゴリー	上位カテゴリー	実施・未実施	施設種別
45	47			事例6	今までは畑で栽培活動をしていたが、職員が畑に水をまきに行くなど、子どもの活動というよりは職員の活動になってしまっていた。今年はこの事例にヒントを得て、各クラスの好きなどところにプランターを置いて、子どもたちが植えたいものを自由に育ててみようということにしてみた。クラスによって、キュウリ、オクラ、シソ、枝豆などさまざまであったが、子どもたちが自分で水をやったり、毎日様子を見ることができるようになって、主体的に栽培活動を行うようになったことで、きゅうりが大嫌いな3歳児が、自分で栽培したきゅうりを小さく切って味噌をつけて食べてみたらおいしいといって食べることができた。母親に報告すると、驚き、とても喜んでいたという事例である。	3歳	クラスの中で栽培活動をする ことで食べられるようになった 事例	子どもの主体性を尊重した支 援	実施	保育・幼 児教育
62	64			資料1	乳幼児健診における個別相談の場で活用した(乳児健診は複数の月齢をまとめて行っている)。離乳食が進まない、食べないという悩みに対して、資料1を参考に、口腔機能や調理形態を確認した上で、資料1の内容を確認しながら助言をした。	4,7～11か 月児、1歳 6か月児	個別相談の際の活用事例	保護者への支援・情報共有	実施	母子保健
62	64			資料1	歯がまだあまり生えてないお子さんの保護者に対して、具体的に何歳ぐらいに歯が生えてきて、具体的にどのくらいのものが食べられるかというのを、この表に基づいて保護者に説明した。ベビーフードばかりではなく家でもいろんな食事を、保育園の食事に準ずるように、ちょっと工夫してみようかというような気持ちになっていただいたようである。	1歳	食事支援の際の活用事例	保護者への支援・情報共有	実施	保育・幼 児教育
62	68			資料1,2	偏食や小食で心配されている保護者の方への支援に活用した。今は、たまに食べむらはあるが、前より食べられる頻度も多くなってきてはいる。	0歳	食事支援の際の活用事例	保護者への支援・情報共有	実施	保育・幼 児教育
62	64			資料1	1歳児クラスの男の子の保護者の方から、「箸を実は持っているんです。どうでしょうか」というような保育士さん経由での相談があった。保護者会があるタイミングだったので、個別ではなくクラス全体に対して、資料1を参考にしたプリントを作って配布した。その後の状況はまだ把握できていない。	1歳	食事支援の際の活用事例	保護者への支援・情報共有	実施	保育・幼 児教育
62	64			資料1	0～2歳への食事支援の際に、姿勢を正しくすることや、食べなかった時の対応などについて、支援ガイドの「支援の例」のところを担当保育士と情報共有しながら進めた。さらに、保護者が家庭の食事のことで困っている場合、保育士から保護者に同じように伝えるようにした。	0,1,2歳	食事支援の際の活用事例	保護者への支援・情報共有	実施	保育・幼 児教育
62	64			資料1	年中さん(4歳児)に箸の使い方を教える際に活用した。箸を使う時期がゆっくりめと感じていたので、支援ガイドを参照しながら、担任と情報共有し、保護者宛のお便りなどに内容を掲載し、保護者にも「こういうふうにご家庭でもやってみてください」と伝えた。	4,5歳	食具(箸)を使えるようになる ための対応事例	保護者への支援・情報共有	実施	保育・幼 児教育
62	64			資料1	資料1をカラーコピーして母親に渡したところ、母親自身もその資料に興味を示し、スプーンの握り方など、参考になったと話してくれた。	1歳	アレルギーがあり、体格も小 さめで食べ方が気になる子ど もへの対応事例	保護者への支援・情報共有	実施	保育・幼 児教育
65				資料2Q&A1	現在、5歳児が3, 4歳児の食事を盛ることなども行っているが、自分から苦手なものについて言い出せない子どもなどに関しては、担任の方で配慮して「どうする?」「ちょっと減らしたい」といった対話をしながら食べる量の調節を行うようにしている。 また、5歳児は、自分で担任に食べる量を伝えるようにしている。 以前は全員同じ量を盛って、頑張って食べるということをしていたこともあるが、食べる量にも個人差もあるので、子どもの気持ちも大切にしながら食事がとれるようにしている。	3,4,5歳	子どもの気持ちに配慮して担 任が食事の量を調節している 事例	子どもの主体性を尊重した支 援	実施	保育・幼 児教育
65	68			全体的に	保護者に対して配布している食育だよりの中で、食に関する概念など、支援ガイドに書かれている内容で再確認しながら伝えた。		保護者への情報提供	保護者への支援・情報共有	実施	保育・幼 児教育

表9 インタビュー内容 I . 支援ガイド活用について 1. 子どもや保護者に対する支援の場における活用(つづき)

参考頁1 参考頁2 参考にした箇所 子どもや保護者に対する支援における活用										
1 始	1 終	2 始	2 終	図・Q & Aなど	内容	対象年齢	カテゴリー	上位カテゴリー	実施・未実施	施設種別
66				資料2 Q&A3	アンケートにも記載した例であるが、ジャムが苦手でジャムパンを食べられなかった子どもに、白パンから対応し、ジャムを別に添えるようにしたところ、ジャムの美味しさに気づき、食べられるようになった。保護者から家庭での食べ方をうかがい、園での様子を伝え、情報共有をしながら対応を進めた。	3歳	偏食対応事例	保護者と一緒に考えることで の支援の方向性の共通理解	実施	保育・幼児教育
66				資料2 Q&A3	カレーが嫌いな子には肉じゃがを代わりに出したり、混ぜご飯が嫌いな子どもには、白いご飯を、厨房(栄養士、調理員など)と連絡を取り合いながら対応している。	3歳	偏食対応事例	子どもの主体性を尊重した支援	実施	保育・幼児教育
66				資料2 Q&A5	偏食(野菜嫌いなど)、食べ歩き、むら食いなどについては、保護者に家庭での様子もうかがいながら、個別に対応し、長い目で、温かく見守り、食べられたら良かったと褒めるように対応している。支援ガイドを参照したというより、支援ガイドからの情報で、これまでの対応の方向性について確認できた。	全	偏食や食事の心配事への対応事例	職員自身の支援の方向性の確認	実施	保育・幼児教育
66				資料2 Q&A4	年少児に園では殆ど食べない子どもがいる。スープ系1口、白ご飯1口程度しか食べないが、家庭では食べている。食事の他にも気になることがあるので、集団生活が苦手な子どもとして、家庭と連携を密にしながら対応している。	年少	園で食べない子ども、気になる子どもへの支援	保護者と一緒に考えることで の支援の方向性の共通理解	実施	保育・幼児教育
全体					月に1度、1歳6カ月健診の中で、栄養士が個別相談の時間を設けており、希望者や、保健師が支援が必要と判断した人が参加している。月に1度なので回数は少なかったが、対象者としては、1歳6カ月のお子さんで。保護者は、基本的に母親が対象者です。	1.5歳	保護者への支援・情報共有	保護者への支援・情報共有	実施	母子保健

表10 インタビュー内容 Ⅰ. 支援ガイド活用について 2. 施設内の支援者間での活用

参考頁1 参考頁2 参考にした箇所				施設内の支援者間での活用						
1 始	1 終	2 始	2 終	図・Q&Aなど	内容	カテゴリー	上位カテゴリー	実施・未実施	施設種別	
	2	10			肥満児へのアンケートを作る際に参考にした。	肥満児への対応	保護者向けアンケート作成時の参考資料として引用	実施	保育・幼児教育	
	2	29	62	64	資料1	センターでは、非常勤職員との情報共有で活用。健診や出前講座の機会でみんなで共通の認識を持って指導、支援を行っていきけるようにガイドの2番とか3番とかの項目を、4番のほうの項目は実際に読み合わせの形で現在の状況みたいなどころ、保護者の状況だとかお子さんの状況みたいなどころの確認を一緒にして共通の認識を持てるようにというような形で活用した。実際に支援している中で感じるものがガイドの中で示されていて確認が出来て良かった。「資料1」も実際に支援していく中でそれぞれの月齢によって違うところがあるので、一覧表で載っているというのはすごく使いやすい。	非常勤職員との情報共有	職員間での情報確認・共通理解	実施	母子保健
	11			図20	問題点がどこにあるのかを職員同士で探るうえで、p.11の図20を見ながら確認していくことができた。これまでは偏食について漠然と捉えていたが、図20にあるように、生活リズム、本人の食事への関心や意欲、自ら食べたいという気持ち、食事の内容や量、調理の仕方についてなど、ここにある文言を一つ一つ具体的に見つめ直すことで、職員間で一緒に問題点を分類することができた。	偏食が強い子どもへの対応についての職員間での情報整理	職員間での情報確認・共通理解	実施	保育・幼児教育	
	11	23	65	68	資料2	幼児期の栄養・食生活の課題および把握すべき基本事項から、モデルや支援協力の展開、具体的な支援策のポイントが読みやすかったり、使いやすかった。Q&Aも具体的な内容や例が書かれているので、栄養士以外が施設内で共有して使うとなれば、使いやすいと思う。	食事をどのように食べる・食べさせるのがよいかについての共通理解	職員間での情報確認・共通理解	未実施	母子保健
	13			図22	p.13の図22の図を確認しながら、支援者として保護者と対話し、その結果、家で食べられるじゃがいもの固さ等について情報を得ることができ、食べられないにんじんをじゃがいもと同じような固さにつぶして与えることで、それまで食べられなかったにんじんを、1か月後には自分で食べられることができるようになった。	偏食が強い子どもへの対応についての職員間での情報整理	職員間での情報確認・共通理解	実施	保育・幼児教育	
	13	22	18	19		特にp.18,19に書かれているような具体的な支援策について、職員間で確認することで、職員同士の考え方の共通理解をすることができ、職員間で同じ方向性を探りながら子どもへの支援を考えることができつつある。	改善のための支援策を共通理解するための活用	職員間での情報確認・共通理解	実施	保育・幼児教育
	13			図22	保育園へ巡回に行くと、公立は栄養士が1人という職場が結構多い。民間は複数いるというところとベテランの方からやっぱり今年入ってきた新人の方もいらっしゃるのので、どういふうに保護者から質問されたときにどこに視点を置いていふところがガイドではすごく具体的で分かりやすい。ベテランさんの方だと伝えるというところ「こういう感じ」みたいなニュアンスになる部分が具体的に提示されているので、すごいこれは活用しやすいなというふうに感じた。	支援の方向性の共有	職員間での情報確認・共通理解	未実施	保育・幼児教育	
	13			図22	今回は、限られた期間で自分で消化するのが精一杯だったが、保育士・看護師と支援のチャートなど共通認識を持てるきっかけ作りが期間が長ければ出来たと思われる。乳児・幼児の会議や給食の会議も月1回設けているのでそういったところで共有というのは可能であると思われた。隣にある子育て支援センターの福祉関係のスタッフとの情報共有にも役立つと思う。	多職種との情報共有	職員間での情報確認・共通理解	未実施	保育・幼児教育	
	14	14	27	28	コラム 口腔の発達 保育・幼児教育現場における子どもの偏食対応について	日々の保育の中で、子どもが食べているのを見に行ったときなどに、コラムを自身が読んで、保育士さんや調理師さんに大事な点を伝えた。「口腔の発達と歯磨きのポイント」と「偏食の対応について」を特に活用した。	保育者・調理師との情報共有	職員間での情報確認・共通理解	実施	保育・幼児教育
	14	29			コラム	非常勤の栄養士が総勢7名いるが、認識のすり合わせや、最新の情報が載っていて非常に勉強になった。栄養士同士の共通認識を持てた。	非常勤職員との情報共有	職員間での情報確認・共通理解	実施	保育・幼児教育
	16	17			コラム 食べ物による窒息事故の予防	食べ物による窒息事故の防止は職員会議や研修で活用している。特にミニトマトの事例はとても難しい問題である。3つのポイントは事故の具体例があり大変分かりやすく、食育の内容を検討する際の参考にした。	保育者の知識向上・職員間の共通理解	職員の知識向上	実施	保育・幼児教育

表10 インタビュー内容 I. 支援ガイド活用について 2. 施設内の支援者間での活用(つづき)

参考頁1		参考頁2		参考にした箇所	施設内の支援者間での活用				
1 始	1 終	2 始	2 終	図・Q&Aなど	内容	カテゴリー	上位カテゴリー	実施・未実施	施設種別
16	17			コラム 食べ物による窒息事故の予防	保護者からブドウをいただいたとき、コラムにも窒息事故予防のことが書いてあったことを栄養士と共有して、「支援ガイドにも窒息のことも書いてあるし、プチトマトでもなんでも丸のものは怖いし、カットしよう」ということで、ブドウもカットしてお皿にのせて子どもたちに供給した。支援ガイドにも書かれていることで、窒息予防について再確認することができた。	窒息事故予防	職員間での情報確認・共通理解	実施	保育・幼児教育
16	17			コラム 食べ物による窒息事故の	食べ物による窒息の事故の予防については、事故の予防に意識を持って対応できるよう保育者・調理師と一緒に読んだ。	保育者・調理師との情報共有	職員間での情報確認・共通理解	実施	保育・幼児教育
20	21			図24, 図25	「あ、そうなんだ」というふうに、分かったと言っているところが、この地域における連携協力ポイントで。私たちがちゃんと説明しておかなきゃいけなかったところでもあるんですが、センターがあって、どこが保護者と子どもにつながっていて、どう連携しているかというところが、あらためて分かったということをしていました。やっぱり、その日だけ、ぽっと来てもらっている栄養士さんなので、誰がいて、どこと誰がどうつながっていて、というのが、健診の流れの中で、自分は栄養相談だけで来ているけれども、その前にどういう流れがあってとか、栄養相談が終わった後でも地域でどういうふうにつながっているかとか、そういうところのつながりが、図とか、あと健診の流れも、こちら辺の図で分かったというふうには言っていて、こちら辺がすごい良かったというふうに、見てもらった栄養士は言うておりました。	職員間での情報確認・共通理解	職員間での情報確認・共通理解	実施	母子保健
27	28			コラム 保育・幼児教育現場における子どもの偏食対応について	無理やり食べさせようとする先生もいるが、子どもの気持ちを理解し、強要せず少しでも食べられたら褒めてあげる、長い目で見ることが大事だと考えている。	偏食対応の参考になった	職員間での情報確認・共通理解	実施	保育・幼児教育
31	61			事例	(活用の可能性) ・ルーティーン業務ではゆっくり時間を取って情報共有する場がないが、新規で食育を計画する際は事例を活用できるかもしれない。	職員間での情報確認・共通理解	職員間での情報確認・共通理解	未実施	母子保健
41	44			事例5	食育の計画を立てたり内容を検討する際にガイドを使用した。が、時期的に、例えば年度末とかのほうが、次年度の食育計画など、もっと使う機会が多いと思う。今回は、試行的運用の期間が短く、その期間内にコロナのために2回、休園になった事もあり、十分な活用は出来なかったが、事例5の「物語メニュー」を参考に栗ご飯の絵本を使って、読み聞かせをしたり、お散歩に行ったときに子どもたちが拾ってきてくれたいがぐりなどを飾ってみたりした。当日まで、子ども達も興味がわいたようだった。今後は、カボチャでシンデレラなども企画したい。	食と保育の一体化	食と保育の一体化	実施	保育・幼児教育
41	44			事例5	p.42にあるマップを使って、子どもの遊びや、子どもの興味関心、保育者が捉えている季節感などについて、給食業者と一緒に理解を深めるために活用してみたい。給食業者とは月1回給食会議をしているので、そのときに、今、子どもが何に関心を示しているか、といった情報についてマップを作成することで情報共有し、食育についての共通理解を図れたら良いと考えている。	マップを活用し子どもの興味関心の共有	職員間での情報確認・共通理解	未実施	保育・幼児教育
61	63			資料1	離乳食の支援について活用した。	食べさせる姿勢の理解	職員の知識向上	実施	保育・幼児教育
62	64			資料1	新卒の職員が多く、また、子どもがいない職員も多いため、食べさせ方や発達についての知識など、学びきれていないこともあり、資料1を使って、食具の持ち方(まずは上からにぎって食べられるようになり、やがて下から持つ三つ指握りで食べられるようになるなど)の流れを、図を見ながら把握することができてよかった。	新卒の職員等にとっての食べさせ方や発達についての知識の習得	職員間での情報確認・共通理解	実施	保育・幼児教育
62	64			資料1	調理形態について、離乳食中期から後期に移るときに、どれくらいの固さになっていくとよいかということも確認できてよかった。	調理形態の把握	職員間での情報確認・共通理解	実施	保育・幼児教育

表10 インタビュー内容 I. 支援ガイド活用について 2. 施設内の支援者間での活用(つづき)

参考頁1 参考頁2 参考にした箇所				施設内の支援者間での活用					
1 始	1 終	2 始	2 終	図・Q&Aなど	内容	カテゴリー	上位カテゴリー	実施・未実施	施設種別
62	64			資料1	食べさせる姿勢についても、肘が直角になってテーブルと子どもの身体の間に握りこぶし一つ分空けるとよいことなど、図を見ながら職員同士一緒に確認できたのでよかった。	食べさせる姿勢の理解	職員間での情報確認・共通理解	実施	保育・幼児教育
62	63			資料1	口腔ケアの発達や口の中の写真を見てもらって、職員会議のときにみんなで共有した。	保育者の知識向上・職員間の共通理解	職員間での情報確認・共通理解	実施	保育・幼児教育
62	63			資料1	健診のほうのパートの栄養士さんに、これを見てもらって、1歳半というか離乳食の完了期ぐらいまでは国のガイドがあるので、何となく、どういう話をしたらいいかみたいな、国の何となくの方針があるんですが。それ以降が結構、その方の経験的なところとかも入って、お話を、相談で受ける感じになっちゃうので、そういった点で、この進め方とか、あと保育園とかで実際にどういう指導をして対応しているかというところを、内容をお勉強というか、参考にさせていただきながら、栄養相談の場で使わせていただいているというような形になります。	支援の仕方の確認・共有	職員間での情報確認・共通理解	実施	母子保健
62	64	65	68	資料1 資料2	乳児期によくかまないとか、手づかみ食べをしないと、自分自身で食べないということに、職員がどのような働き掛けをしたらいいかということで一緒に考えまして、こちらの支援ガイドのほうも見ながら考えました。	食事をどのように食べる・食べさせるのがよいかについての共通理解	職員間での情報確認・共通理解	実施	保育・幼児教育
62	64			資料1	食育研究委員会というものもありまして、そちらのほうで2回ほどこちらの資料を見ながら、資料1の口腔(こうくう)機能と手指の動きの表をみんなで見ながら勉強して、また他の保育士や保護者にも見えるように掲示させていただいています。すぐこれが分かりやすいねということで、とても皆さんがこれを見て、子どもの1人ずつ、個々の発達状況を見ながら支援をしている状況です。	食事をどのように食べる・食べさせるのがよいかについての共通理解	職員間での情報確認・共通理解	実施	保育・幼児教育
62	64			資料1	保健師が1歳6か月健診で保護者に説明するときに、資料1を元に改訂した施設オリジナルのパンフレットを使用した。	食事をどのように食べる・食べさせるのがよいかについての共通理解	職員間での情報確認・共通理解	実施	母子保健
62	64			資料1	食育年間計画に基づいて、姿勢だったりお箸の話をクラスで食育指導という形で実施していく際に、例えば手づかみ食べをする時期だったり、あとは姿勢について、支援の例を具体的に保育士さんに伝えた。どのくらいの時期にやったらいいかという指標としての、「今、このくらいができている。じゃあここからスタートしようか」というように、使用した。	保育者・調理師との情報共有	職員間での情報確認・共通理解	実施	保育・幼児教育
62	64			資料1	資料1の調理形態・調理の例や食べにくい食材の例などを参照し、すいとんの大きさなどについて、栄養士と相談しながら窒息事故の予防に心掛けた。	誤嚥や窒息事故の予防に参考になった	職員間での情報確認・共通理解	実施	保育・幼児教育
62	64			資料1	保育者は個人の経験知だけでなく、正しい知識を持ち、それをもとに保護者に説明できなくてはいけないと考えている。そういった意味で、このガイドは正しい理論に基づいて作成されているので、子育て経験のない若い保育士も含め、専門職としての保育者の知識の向上のためにとても役に立つと思う。	保育者の知識向上	職員の知識向上	実施	保育・幼児教育
62	64			資料1	献立例や食材に特に違和感はなく参考にしている。	食事支援の際の活用事例	職員間での情報確認・共通理解	実施	保育・幼児教育
62	64			資料1	歯科衛生士もいるので、見てもらってもよかったかなと思います。そういうふうな、結構、目線が。やっぱり、どこの職種もそうですが、擦り合わせの部分が、最近どうやっている？とかというのをお互い話していて、水分の練習をどうしている？とか、何カ月ぐらい？とか、よく、お互いで相違があってはならないので、お話ししたりするので、他の職種にも見てもらおうと恐らくよかったのかなと、今、思いました。やっぱりお口の中は、専門なので。	支援の仕方の確認・共有	職員間での情報確認・共通理解	未実施	母子保健

表10 インタビュー内容 I. 支援ガイド活用について 2. 施設内の支援者間での活用(つづき)

参考頁1		参考頁2		参考にした箇所		施設内の支援者間での活用				
1	始	1終	2始	2終	図・Q&Aなど	内容	カテゴリー	上位カテゴリー	実施・未実施	施設種別
	65	68			資料2	食事をどこまで、どんなふうに食べさせるのがよいかの共通理解が全職員間でできていなかったが、Q&Aを職員に渡したところ、「楽しく食べる」ということを第一に考えていいのだ、という意見と、「食事はしつけるべき」という意見が出た。そういった意見を出し合うことで、共通理解に一步前進できたのではと感じている。中でも、若手保育者からは、Q&Aを読むことで、「楽しい雰囲気で食べる」「食が進まない子どもには量を調節する」「無理強いをしない」「子ども自身に自信を育てたい」「子ども自身に、野菜をちぎる体験、栽培体験などをさせたい」といった意見が出た。	食事をどのように食べる・食べさせるのがよいかについての共通理解	職員間での情報確認・共通理解	実施	保育・幼児教育
	65	68			資料2	Q&Aを見ることで、いろんな人がいろんな悩みを抱えながら支援している様子が伝わり、同じような取組をしている事例なども共感的に読むことができ、「自分だけではないんだ」と職員が感じることでよかった。	自分だけではないという共感・安心感	自分だけではないという共感・安心感	実施	保育・幼児教育
	65	68			資料2	Q&Aについて、子どもたちに食べさせる時に活用できる。回答が複数あるので使いやすい。回答がとても分かりやすい。	子どもの把握、保育者の知識向上・職員間の共通理解	職員の知識向上	実施	保育・幼児教育
全体					全体	保育士さんから質問があった際に参考にした。	保育者・調理師との情報共有	職員間での情報確認・共通理解	実施	保育・幼児教育
全体					ガイド全体	主に栄養士同士の情報共有で使用した。常勤1人、非常勤が2人、合計3人でも情報共有というのができていなくて、指導の統一でとても役立った。3人が一堂に会するのは1年に1回くらい。	非常勤職員との情報共有	職員間での情報確認・共通理解	実施	母子保健
全体						(活用しなかった) ・一緒に個別相談を担当した非常勤栄養士とはガイドの共有はしなかった ・保健師はコロナ対応で忙しく声をかけられなかった。			未実施	母子保健

表11 インタビュー内容 I. 支援ガイド活用について 3. 他施設と連携した活用

参考頁1 参考頁2 参考にした箇所 他施設と連携した活用									
1 始	1 終	2 始	2 終	図・Q&Aなど	内容	カテゴリー	上位カテゴリー	実施・未実施	施設種別
14	14			コラム	口腔の発達と歯磨きのポイント	給食部会でコピーをして配布した。	県保育連盟連合会給食部会(リモート)で共通理解として活用した	他機関との情報確認・共通理解	実施 保育・幼児教育
15	16			4.2)	P15から書いてある離乳食のこととお口の中のことについて、給食の先生は作るのはお得意なのですが、子どもたちのお口の中がどうなっているかが全く分からない。	県保育連盟連合会給食部会(リモート)で共通理解として活用した	他機関との情報確認・共通理解	実施	保育・幼児教育
15	28	62	68	資料1, 資料2	子育て支援センターから、食育座談会の依頼がきて、幼児期の食事についての困りごとという題目で、対象者が1歳半から2歳半の方だったので、資料を作る上でこのガイド案を使用させていただいた。平成27年度の調査結果から、遊び食べと食べむらと、という上位のところの悩みについてそれぞれお話ししたんですけども、Q&Aの偏食のところ、資料1の食べにくい食品とその対応例、誤嚥(ごえん)しやすいところなどをつまみながら、お話しさせていただいた。	依頼講習会の資料作成	保護者向け食育座談会の資料作成の際に引用	実施	母子保健
16	17			コラム	食べ物による窒息事故の予防	先生方にはコラム、危険な食べ物とかもしっかり書いてあったりするので、このコラムの部分もすごく参考になりますよねというお話をさせてもらっている。	県保育連盟連合会給食部会(リモート)で共通理解として活用した	他機関との情報確認・共通理解	実施 保育・幼児教育
18	18			4.3)(1)	(1)噛むことを体験するについて、かむために、かむ力を養うためにはというので、やっぱり先生方も硬い物を出したほうがいいのか、でも引っ掛けるんじゃないかとか、いろいろそこら辺も各園で工夫されているようなお話でした。	県保育連盟連合会給食部会(リモート)で共通理解として活用した	他機関との情報確認・共通理解	実施	保育・幼児教育
18	18			4.3)(2)	(2)自分から進んで食べるについて、例えば、給食の先生も残菜がある日とない日が多いとか、残菜の多いクラスとそうでないクラスがあるよねと。それは何でだろうねという話もやっぱりよく上がる。例えば、遊んでいないからおなかが空かないのかもしれないけれども、もしかしたら何か形態がまずくて本当は食べたいんだけども食べにくくてというのがあるかもしれませんよねというお話もちょっとさせてもらっている。作る側としては配慮をしていきましょうという部分と、適切な食べやすい形態で出てきているかをみんなで再確認しましょう、この時期だったら手づかみでいけるのかな、手づかみの形態はどんな形なのかなとか、あとは先ほども言ったみたいに、お教室に行けないんだったらせめて保育士の先生方としっかり連携をとりながら、この形態が本当に正しいのかどうかというのを一つずつ拾って完食、子どもたちがおいしく食べられるように私たち作り手のほうも配慮していきましょうね、というお話をさせてもらった。	県保育連盟連合会給食部会(リモート)で共通理解として活用した	他機関との情報確認・共通理解	実施	保育・幼児教育
27	28	62	64	資料2	地域交流という場(園児の保護者以外も参加できる)で、園に遊びに来てくれる保護者に対して、支援という形で食育指導をする際に活用した。食事についての悩みを多く持っていらっしゃるお母さんが多く、偏食やQ&Aを活用した。	地域交流の場での保護者支援で活用	地域交流の場での保護者支援で活用	実施	保育・幼児教育
62	64			資料1	離乳食関係をコピーして配布した。	県保育連盟連合会給食部会(リモート)で共通理解として活用した	他機関との情報確認・共通理解	実施	保育・幼児教育
62	64			資料1	同一法人内の保育園が複数箇所あり、コロナがなければ「子育て夢広場」というイベントを合同で行っている。入園する前のお子さん方が遊びに来られるよみたいな、そういったのをやって。遊べる物を出したりとか、あとメニューを出したりとか、試食を置いてみたりとかという、そういうイベントを行ったりしていた。コロナが落ち着いたら、離乳食の相談等に利用したい。	同一法人内の他保育園との連携	同一法人内の保育園での合同イベントでの活用	未実施	保育・幼児教育

表11 インタビュー内容 I. 支援ガイド活用について 3. 他施設と連携した活用(つづき)

参考頁1 参考頁2 参考にした箇所 他施設と連携した活用										
1	始	1終	2始	2終	図・Q&Aなど	内容	カテゴリー	上位カテゴリー	実施・未実施	施設種別
	65	68			資料2	当保育園は複合施設になっていて、子育て広場という施設があり、そこで年2回程度栄養相談という場があり、そこで栄養相談(個別相談)をする際に活用した。	子育て広場での保護者支援で活用	子育て広場での保護者支援で活用	実施	保育・幼児教育
	65	68			資料2	給食部会でコピーをして配布した。	県保育連盟連合会給食部会(リモート)で共通理解として活用した	他機関との情報確認・共通理解	実施	保育・幼児教育
全						系列の施設があるが、そこでは特に活用しなかった。	—	—	未実施	保育・幼児教育
全						自園の取組みとして、月に一度「マザースクール」という、赤ちゃんを産む前後の母親を対象に、子育て等に関するいろいろなことを教えてくださる方をお招きして話をする機会を作っているとのことだが、これはあくまでも園独自の取組みとして行っているの、こういう支援ガイドをもとに、市の健診をしている行政とも共通理解ができればよいと考えている。 自分たち認定こども園では、市で行っている乳児健診や3歳児健診でどのような話をしているのか、情報が入らないので、この支援ガイドを活用して、お互い同じ方向性の支援ができるようにしたい。園と市で別の情報を伝えてしまうとことで、保護者が混乱しているケースも見受けられるため、園と市での共通理解を図っていきたい。	市の保健師との共通理解として活用したい	他機関との情報確認・共通理解	未実施	保育・幼児教育
全						市内の法人立で主催しているブロック研修が毎月あって、看護師部会、栄養士部会、保育士部会があるのですが、今年度のブロック研修は終わってしまったけれども、来年度またあると思うので、そこで共有できると思う。	他園との共通理解として活用したい	他機関との情報確認・共通理解	未実施	保育・幼児教育
全						子育て支援センターができたばかりで、まだ具体的な活用可能性については不明。	—	—	未実施	母子保健
全					ガイド全体	父親向け講座などで他の園と協力するが、その際の情報共有などで利用できそう。	他園との連携	他機関との情報確認・共通理解	未実施	保育・幼児教育
全					ガイド全体	父親向けの地域向けイベントをやっていて、今はコロナなのでZoomでの開催ですがけれども、本来であれば保育所を開放してそれぞれ文章を作ってそういうところに公立保育園プラス民間保育所も来て一緒に連携して事業を進めるというイベントがある。その中で食育等をどのような形式で行うか民間保育所と連携してる。悩み事とかもお互いに考えたりとか相談したりとかもする機会になるので、事例とかの紹介が出来そう。	保健センターと他の保育所との連携ならびに情報共有	他機関との情報確認・共通理解	未実施	母子保健
全					ガイド全体	保育園等の訪問指導の際に使用できそうだが、現在は業務が煩雑になっていて予定はない。子育て支援センターでの活用も考えられる。イベントなどを企画する場合は予算の計上もあるため、前年度の秋くらいに計画を立てる。	保育園等の訪問指導	保育園等の訪問指導の際の活用	未実施	母子保健
全					ガイド全体	幼稚園・保育園の給食関係者向けの研修会の開催、情報共有・情報提供や病院からのケース相談などに活用できそう。	幼稚園・保育園の給食関係者ならびに地域の病院への情報提供	他機関との情報確認・共通理解	未実施	保育・幼児教育

表12 インタビュー内容 資料1 分かりやすい点

分かりやすい点(職員から)	施設種類
食具の持ち方、調理形態、食べさせる姿勢などについて、図があり理解しやすく、職員同士一緒に確認できてよかった。	保育・幼児教育
このような資料が欲しかった。新人研修等で使っていきたい。	保育・幼児教育
内容がとてもわかりやすく、沢山の項目が短く理解しやすいので、保育士や看護師、新人職員等、全ての職種で理解を深めることができた。	保育・幼児教育
口腔機能の発達について、歯の写真などもあり、また姿勢についてもわかりやすい。	保育・幼児教育
結構、食品は何を食べたら、どういふのを食べても今、大丈夫ですかとか、質問もあつたりするので、その参考で、お肉だったらハンバーグ程度とか言えるというのは、すごい、相談を受ける者としては、参考に。お母さんに伝えやすいので、結構これぐらいボリュームがあってもいいかなという感じはします。	母子保健
職員にも保護者にも見えるところに掲示しました。いろいろなラインで引きまして、このようなところを見ながら、再度確認しながら働き掛けをしました。	保育・幼児教育
意外とH保育園は子どもたち1人ずつの食べ方を見て、全て怖いからといって外すのではなくて、いかに安全に食べられるか、あと目視して安全に食べているところを確認するということを重要視していて、なので白玉団子などもちよつと小さく切つてとかで提供していたり、お餅ももちろん食文化の継承として出しています。なので、これはでも一般的な家庭でも活用できるものなので、H保育園だとこれも出しているよねというところは、逆にあります。なので、一般的な指標として、私はいいかなと思うんですが、あとお子さまの個人差もあるので、1歳だからこうだとかではなくてというところで、だから成長は目安ですが、やっぱり前後しますというか、月齢に合ったものが必ずこれではないということも、私はいつも栄養相談とかをするときに話しています。リンゴは2mmの薄切りにして出しています。年齢によって、5mmとか。現場のほうでフォークとかで切ってもらったりとかで、その子の状況に合わせているので、取りあえず確かに薄切りであることはそうだと思うんですけども、それからその子に合わせてより小さくしたりとかというふうに提供しているかと思います。	保育・幼児教育
全部網羅されているので、歯の形成から手指で食具を持つというその段階も、大体このくらいが目安だなということが分かりますので、本当に持てない子は3歳、4歳でも食具がスプーンで、こういう持ち方だという子もちよつというので、これは目安ですという感じで、持てない子がなかなかやっぱりいます。	保育・幼児教育
私たちは3歳の最初はスプーン、フォークで良いと思っているんですけどもね。ただ、持ち方とかはやっぱりお箸にする段階になると思うので、ちゃんとお箸を持つような感じでスプーンとかは持つてほしいなとは思っているので、「やっぱりそうやんなあ」という思いはあります。あの表を見て「できるよな」という。ちゃんとその子に合った持ちやすいものを選ぶべきだと思った。	保育・幼児教育
1歳6カ月健診のときに丸飲み、噛まないなどの質問が多いため、食品の大きさや硬さを見直してもらふ目的でリーフレットを作成している。資料1をもとに、歯の状況に合わせて調理形態や硬さを工夫する点、食べにくい食品などを盛り込んで改訂した。調理形態などを具体的に話すのにとっても役立つ。口腔機能の発達というところでは、歯の写真があつて。すごくこれは分かりやすい、本当に使いたいなと思った。あと食べる機能の発達のところでは、イラストが付いているので、すごく分かりやすい。食材の例や調理法も支援する中で使える。	母子保健
口腔機能や調理形態	母子保健
Q5はよくある相談なので、A5にある内容をそのまま活用した。	母子保健
スプーンや箸などの食具について、指先の発達に合わせた使い方が記載されていて、職員にも保護者にも伝えやすい。	保育・幼児教育
0～2歳への食事支援の際に、姿勢を正しくすることや、食べなかった時の対応などについて、支援ガイドの「支援の例」のところを担当保育士と情報共有しながら進めた。さらに、保護者が家庭の食事のことで困っている場合、保育士から保護者に同じように伝えるようにした。(保育者にとって、自身の理解にも、保護者に伝える場合でも活用できる。)	保育・幼児教育
調理形態・調理の例や食べにくい食材の例などを参照し、食材の適切な大きさについて、栄養士との相談の際に活用した。	保育・幼児教育
保育者は個人の経験知だけでなく、正しい知識を持ち、それをもとに保護者に説明できなくてはいけないと考えている。そういった意味で、このガイドは正しい理論に基づいて作成されているので、子育て経験のない若い保育士も含め、専門職としての保育者の知識の向上のためにとっても役に立つと思う。	保育・幼児教育
献立例や食材に特に違和感はなく参考にしている。	保育・幼児教育
お口の状態と、さらにそこに一緒に見られる形で、食べる機能の発達が書いてあるという感じがより分かりやすい。	保育・幼児教育
まだ使っていないが、口腔機能と食べる機能と支援と調理形態、全部一覽で載っているので確認したいときですとか、だれかに提案するときとかも後ろに載っているのもこれ1枚でお話ができるというのが使いやすいなと思った。	保育・幼児教育
口腔の機能の発達のところとそれに合わせての支援の仕方が一覽表になっていて、これを1枚見れば、そのお子さんの月齢を見てそこに沿ったものを支援をしていくというところではすごい分かりやすく、1枚でも網羅されている形になっているので分かりやすい。	母子保健
資料1が6歳までであるというのが今回は本当に栄養士としては勉強になった。食べる機能の知識が離乳食で止まっている栄養士も多く、6歳までの変化が分かりやすく、ガイドに載っていて大変嬉しかった。	保育・幼児教育
離乳食の指導を、栄養士だけではなく、歯科衛生士にも一緒に講習会に入ってもらって行っている。口腔機能の発達の話ををする際にイラストがとても役立っている。調理はすごい細かく網羅されていたのでとても良い。	母子保健
分かりやすい点(保護者から)	施設種類
スプーンの握り方など、発達がわかりやすくてよかった。	保育・幼児教育
支援の後の連絡ノートのほうに、大変参考になったので、家庭の食事とか、あとお箸のこととか、ちよつと家庭と園との差があつたようなので、いろいろな働き掛けを園のようにしてみたいと。あと、手指の機能とか、発達状況に合わせたものを、無理せずに、食具の持たせ方とか、そういうのもちよつと顧みたように思います。	保育・幼児教育

表13 インタビュー内容 資料1 分かりにくい点、改善してほしい点

分かりにくい点、改善して欲しい点（職員から）	施設種類	ガイドへの反映
口の中の様子はイラストがあってわかりやすいが、舌の動きについてや、外から見た様子（口の中に食べ物が入ってもぐもぐしている様子が伝わるイラスト）などがあるとわかりやすい。3歳以上児なども、舌の動きがどのようになっていくとよいのかイラストなどでわかるとありがたい。	保育・幼児教育	資料1に舌の動きなどのイラスト追加
お箸だけはやっぱり六角箸が持ちやすいので、「こういうのいいですよ。軽くていいですよ」と。「長さもいろいろあるからお子さんに合わせて選べるし」というのはお伝えしたりはする機会はあるんですけども。でも、特に「こんなスプーンがいいよ」「フォークがいいよ」というのは言っていないので、そんなものも必要なのかなと思います。	保育・幼児教育	資料2に加筆
相談では、手づかみ食べをさせようと、食材を持たせるんだけれども、なかなかかじり取ってくれなくて、というお話も聞くことがあった。この自分で食べるステップの中に、お母さんが口元に食材をもっていったかじり取らせるという記載が、自分で食べられない子のために、あってもいいのかな。	母子保健	資料2に加筆
上司に見せたときに、資料1の字の大きさとかがちょっと小さくて見えないということを言われたりとか、あと表とかもちょっと字がかなり小さかったりするところが、ちょっと見にくいという意見はあります。	保育・幼児教育	文言の整理
目安をもう少し強調するような言葉が欲しい	保育・幼児教育	文言の整理
この表の中のスプーンを使うところも、初めの丸づかみ、その後、肘を曲げたりとかというのは、これはイメージがみんな付きますか。読んで分かる？例えば、スプーンを持ったときに、このスプーンが最初は口までいけなくてひっくり返ったりするわけだけれども、手首が動いたり、この肘のこの動きが分からないだろうなと思ったんですけども。肘が最初は上に上っていたのが、今度は肘を軸にしてこういうふうになる。最初はこうやって全部動くのが、結局は動かないで、こっただけ動くとか、そういうことの、いかないと、これの1行でバーと書かれると、何かちょっと、どういう段階を踏んでという、「今この子はこんな段階なんだな。この間までこれだったけれども、今はこういうふうに、ここまでなったじゃん。いつからそうなった？」とかという、そのステップアップが分かるような書き方だと、この次ここまで行くよとかいうのが、分かるのかなと。	母子保健	食具食べの発達と支援に関するコラムを追加
離乳食を食べさせる量がわからないという相談に対して、量がわかるものがあるとよい（幼児食ではなく離乳期に多い）。資料1は色々なことがまとまっていたのでわかりやすいので離乳食の量も入るともっと活用しやすい。	母子保健	離乳食の量については本ガイドでは掲載しない
提示してもらった内容に追いついていけないのか、寄り添えるか、不安。	保育・幼児教育	—
分かりにくい点、改善して欲しい点（保護者から）	施設種類	ガイドへの反映
舌の動きがわかるイラスト。	保育・幼児教育	資料1に舌の動きなどのイラスト追加
上顎が広がっている様子も取り入れて欲しい。舌の動きもあると良い。食具についてもっと触れて欲しい。	母子保健	資料1に舌の動きなどのイラスト追加
食具の選び方。	保育・幼児教育	資料2に加筆
手づかみ食べから箸が使えるまでの段階をコラム的な感じで紹介してほしい。手づかみするために椅子と机は合っていますかとか。やたら机が高くなっていて、椅子が低かったら手は出ないわけですから。背中はどうなっていますかとか、少し前のめりにならないと、食べようという気にはならないと思うんです。足が安定しなければ、やっぱり前にはならないと思うんで、その辺のことは、その連携をしていかないと、やっぱり手だけをやらうとしてもなかなか、足が不安定なところで手は使えないので。足がちゃんと着いていて手が使えると思うので。その机と椅子はちゃんと合っているのかとか。スプーンもこうやって横から入っていたのが、いつの間にかこうやって自分でこうやって引っ張る。前にでも、「ボールが前に行くようになったじゃん」とか、「ひっくり返ってこうやってやっていたのが、このまんま行くようになったじゃん」とかというのは、これのこれと同じように、この肘の動きとか、手首の動きとか、左手の動きとか、これをやるときの職員の手の添え方とか。例えばコップを返す仕方とか、そういうのが載っていると。	母子保健	食具食べの発達と支援に関するコラムを追加
補助というか、援助というか、そういうところが具体的に書いてあったほうが、いろんなものが試めせるものの視野広がって、先生たちも「あ、そうかな、そうかな」と。でも、これも駄目だった、あれも駄目だった、これも駄目だったということもあると思うんですけども。でも、いろいろ参考になるものがあれば、多分見るのかなと。	母子保健	食具食べの発達と支援に関するコラムを追加
子どもの指先の発達に合わせた食具の使い方について、今の資料においても説明されているが、もう少し詳しい説明が加えられると、さらに説得力が増すのではないかと。	保育・幼児教育	食具食べの発達と支援に関するコラムを追加
口腔の先生なんか行くと、やっぱり最初はおちょこみたいなちっちゃいお皿とかで、見える物で、一口ぐらいずつコップからいきなりコップ一杯入れてやらないよ、とかというのをよくやっていると思うんで。そういう練習の方法とかを教えてあげると、お母さんも先生もわかりやすいのかなと。コップや汁物を飲ませたいけれども、飲ませる練習はどうしたらいいかというのは、どこにも書いていない気がするんです。唇を閉じて。要するに、口を開いたままゴックンはできないので。	母子保健	口腔の発達のコラムに追記
資料1については、これを拡大してポスターにしてもえたら、それを園内に掲示したい。HPIに掲載する際には、この部分だけ個別にダウンロードできるようにしてほしい。	保育・幼児教育	健やか親子21ウェブサイトに掲載する方向

表14 インタビュー内容 資料2 分かりやすい点

分かりやすい点(職員から)		施設種類
Q1	うちの子は食べないのでどうしよう、とかということがあって、その時にQ1などが役立った。また、こういう視点もあるんだと、参考になった。	保育・幼児教育
Q2	食べ物何口の中感触が似たようなもので、ぱりぱりしたものだったら食べられるというのであればぱりぱりした感じに作ってあげるとか、何かそういうのがあったと思うんですけども、ああいうのはすごく「あ、なるほどな」と思って。そういう感じでふにやふにやしたやつをぱりぱりした感じになるようにちょっとアレンジしてあげると食べられるようになるんだというのは、お母さんたちに伝えるのにもすごいいいなというふうに思いました。	母子保健
Q3	混ざっているものが苦手なお子さんの事例について、保育の中でアドバイスできるとよい。	保育・幼児教育
Q5	Q5はよくある相談なので、A5にある内容をそのまま活用した。	母子保健
全	自分たちと同じように、楽しく食べるための工夫をしている具体例を知ることができて、共感できた。「自分だけではないんだ」と職員が感じることもできた点よかった。	保育・幼児教育
全	内容がとてもわかりやすく、沢山の項目が短く理解しやすいので、保育士や看護師、新人職員等、全ての職種で理解を深めることができた。	保育・幼児教育
全	偏食や食のこだわり等についてのQ&Aが載っていて良いと思う。	保育・幼児教育
全	すごく具体的で、やっぱり現場で困ったときにさっと見られるのが、他の人がどういうふうに考えていてと分かりやすかったので、質問があってそれに対する返答があるというのが、すごく参考にさせていただきました。	保育・幼児教育
全	特にこちらのほうは参考にさせていただいて、ちょうど困り感がある保育者がいたので、一緒に考えたりするのにすごく活用できました。	保育・幼児教育
全	食育研究委員会という会議が月に2回あって、41ページの工夫した給食とかについて話すと、やっぱり子どもの食の意欲が湧くという献立の作成の参考にしたいというふうに思いました。 43ページにある食事の手伝い、トウモロコシの皮むきとか、あと枝豆の皮むきとか、調理する前の食べ物を見ることができると、食が細い子どもも結構それで食べ物に興味を持って、食が進んだりとかいう意見を頂いたのも、今後もしていきたいというふうに思いました。 45ページとか、48ページの事例も他園の取り組みが知ることができて、とても参考になったので、今後は取り入れていきたいなというふうに思いました。	保育・幼児教育
全	実は既に僕たちの法人の園でやっていたこととかも結構書かれていて、なのでそれを今までは僕も経験として、この園で既に皆さんで築き上げてきたものだと思うんですけども、そこら辺のやっぱり根拠が明らかになったというか、やっぱりこういうところで書いていただけると、僕たちがやっていることも、ちゃんとガイドライン等で認められていることなんだなというふうな、根拠が明らかになったというのがすごくうれしいことかなと思いました。何かこれまでの活動もやっぱり、こういう事例とかで紹介していただけるとうれしいなというのはあります。	保育・幼児教育
全	偏食や少食などの食事の心配事に対して、自分たちと同じように、無理強いせずに楽しく食べるための工夫をしている具体例を知ることにより、自園の方針を確認することができた。	保育・幼児教育
全	基本的なよくあるような質問が、保育園歴が浅くて悩むことがあったときに、具体的に載っていて、しかもこう答えたらいいですよというのが、ここを見たら載っているのがあるがありがたいと思う。	保育・幼児教育
全	非常勤の職員とかで本当に保育園の現場とかを知らないような人たちがいるので、そういった人たちがこの資料2を見ることで、保育園でこういうふうに指導ができるんだとか、健診の中とかでも保育園でどういうふうにしたらいいか、こういった対応があるとか、支援の幅が広がると思う。	母子保健
全	行政は結構縦割り、栄養士が、今は回ってはいませんが、保育課だと保育課の中でぐるぐるとか、学校と保育課の中でぐるぐる回っていたりとか、保健センターと健康推進課の栄養士がぐるぐる回っていたりとかして、情報共有が密ではないというか、保育園でどういう食育のことをしているかというのが、こちら結構、同じ区でも知らなかったりして、食育の話とか食体験の部分とかの、どうやってお母さんに話したらいいかなというところが分かんなかったりする部分もあるので、こういう事例を見ると、「あ、保育園でこういう食支援をしているのか」とか、というのが分かるので、すごい参考になります。	母子保健
全	「食べられる食材が少ない子どもには」というところは、本当にこのとおり、「何々と似ているよね」というお話を、声掛けも大事ですよという話をお母さんにしました。偏食では、お手伝いができるんだからお手伝いをさせて興味を持たせていきましようというところだったり。もう全体的に本当にこのQ&Aは使わせていただいて、お話しする中で分かりやすく伝えやすい文章だったので、とても助かった。	母子保健
全	母親たちからよくあがってくる内容であったので、自分もやっぱりこういうふうに答えるのがいいのかなという参考になった。やっぱり母親たちの悩みは、全国一緒だと言うことが分かった。	母子保健

表15 インタビュー内容 資料2 分かりにくい点、改善してほしい点

分かりにくい点、改善して欲しい点(職員から)		施設種類	ガイドへの反映
Q3	和食が多いため、もともと別々に盛り付けていることが多く、「混ぜられている」というイメージがわかなかった。献立のイメージがしやすいように献立名やイラストなど入っていると分かりやすい(カレーライス、ミートソースなど)。	保育・幼児教育	資料2に加筆
新	例えばよくかまない子であったりとか、詰め込み過ぎであったりとか、そういう口腔系のQ&Aとかがあると、よりいいのかなと思ったりしました。	保育・幼児教育	資料2に加筆
新	朝食が食べられない家庭についてのQ&Aがあると、大事なことだと思うので。	保育・幼児教育	資料2に加筆
新	質問の種類とか回答例がもっとあると、経験の浅い私にとってはすごい役に立つ。	保育・幼児教育	資料2に加筆
分かりにくい点、改善して欲しい点(保護者から)		施設種類	ガイドへの反映
Q3	逆バージョン(混ぜないと食べない事例)もあるとよいのではないか。園では、何でも白いご飯におかずを混ぜて食べようとする幼児に対して、口内調味を促している。	保育・幼児教育	資料2に加筆
Q5	食べる気力がない・食べることに興味がない子どもへの対応。	母子保健	資料2に加筆
Q8	保護者に生活リズムを改善していただくために、朝の登園が遅い子どもの保護者に対しては、早めに登園できてよく遊んだ出来事などを伝えて、保護者自身が「早めに登園させよう」という気持ちになるよう、奮い立たせることにつながる子どものエピソードを伝えるようにしている。	保育・幼児教育	資料2に加筆
新	・肥満児への対応。 ・コロナ禍での情報共有・情報提供の仕方。 ・食具の使い始めやその発達への仕方。	保育・幼児教育	資料2に加筆
新	姿勢とかマナーに関する内容。例えばおうちですぐに立ち歩いてしまう、食べ物を投げてしまう、食具を投げてしまうなど。	保育・幼児教育	食具食べの発達と支援に関するコラムを追加
新	最近エジソン箸の普及があって、スプーンを飛び越えてエジソン箸のほうを使っているケースがある。でもエジソン箸にしたからといってお箸が使えるわけではなく、スプーンの三指持ちの持ち方もままならないようなケースもある。その辺りの食具の批評?のような内容が(Q&Aに限らず)があると助かる。	保育・幼児教育	食具食べの発達と支援に関するコラムを追加
新	肥満児への対応	保育・幼児教育	肥満児支援コラムを追加
新	なかなか哺乳瓶からコップへ移行するのを嫌がる子に対する支援例があるとよい。無理やりやらせるのか、それとも、その子にとってのやり方をしたらいいのか。保育園だと、どうしても1歳児になるともうコップを使っていくというのが方針なので、そこをどう支援するかが難しい。	保育・幼児教育	口腔の発達のコラムに追記
全	クリーム色のもののほうが多いので、ブルーの母子保健現場での対応例を増やして欲しい。	母子保健	保育・幼児教育と母子保健とで共通する内容が多いため施設種類での分類はしない
新	卒乳・断乳で悩んでいるお母さんが多いので、その方法が載っているとよい(「でも決めるのはお母さんですよ」といつも言いながらアドバイスしています)。卒乳について入れてほしいという意見は、3園すべてからあがった。	保育・幼児教育	卒乳に関しては本ガイドでは掲載しない
新	卒乳のタイミングについては、情報がネットであふれ過ぎていて、どれを選択したらいいのか、不安になっているお母さんが多い。コロナの関係で相談する相手もないから、自分で選ばないといけませんが、結局どれが正解か分からないから、栄養相談に来た方がいた。	保育・幼児教育	卒乳に関しては本ガイドでは掲載しない
新	卒乳だったり、あと離乳食を進める時期、目安というところが、いろんな情報がある中でも、自分がやりやすいところをやっていいんだよというような、そういった声掛けができるものもあつたらいい。	保育・幼児教育	卒乳に関しては本ガイドでは掲載しない

表16 インタビュー内容 資料2 Q&Aに追加検討する事例

参考1	参考2	内容	対象年齢	カテゴリー	施設種別	ガイドへの反映
Q1		今までは畑で栽培活動をしていたが、職員が畑に水をまきに行くなど、子どもの活動というよりは職員の活動になってしまっていた。今年はこの事例にヒントを得て、各クラスの好きなところにプランターを置いて、子どもたちが植えたいものを自由に育ててみようということにしてみた。クラスによって、キュウリ、オクラ、シソ、枝豆などさまざまであったが、子どもたちが自分で水をやったり、毎日様子を見ることができるようになって、主体的に栽培活動を行うようになったことで、きゅうりが大嫌いな3歳児が、自分で栽培したきゅうりを小さく切って味噌をつけて食べてみたらおいしいといって食べることができた。母親に報告すると、驚き、とても喜んでいいという事例である。	3歳	徐々に少量から配膳した偏食の対応例	保育・幼児教育	△ 既に事例に記載済み
Q1		・味付けを工夫してみてください。 ・今は食べられなくても年齢が上がってくると食べられるようになるかもしれないので、(体重が小さくなければ)様子を見ましょうか、あまり焦らなくていいですよ。		気長に構える気持ちの重要性	母子保健	△ 既に本文に記載済み
Q1	Q3	白いご飯だけとか、パンもジャムなどついていないものなら食べるといった子どもに対して、食べないからといってまっさらなパンだけあげるのではなく、パンにぬっている部分とぬっていない部分の両方を出しながら、ちょっとでも経験を広げていけるように提供するようにしている。保護者の意識も少しずつ変化し、これまでは食べないからといって白いパンのみをあげていたが、保護者自身もいろいろと試してみるようになった。	2歳	子どもの気持ちに配慮して配膳している例	保育・幼児教育	○ 資料2に加筆
Q1	Q3	ジャムパンが食べられなかった事例。保護者に確認したところ、幼稚園では食べられていると思っていた。そこで、白パンにジャムを別添えて少し出して、もしその子が食べたいと思ったらつけるようにして、「無理強いはいしないんですけど、食べられたらあげるようにしますね」というふうに伝えながら、少しずつ進めた。ちょっとずつ1口食べて、おいしいと気付いて半分以上食べたりしながら、食べられた場合は、保護者に報告をし、連携を取るようにした。その結果「お家でも食べるようになりました」という子もいた。	3歳	保護者が園では食べられていると誤解していた例。偏食対応の場合の保護者との情報共有や連携の重要性。	保育・幼児教育	○ 資料2に加筆
Q1		現在、5歳児が3、4歳児の食事を盛ることなども行っているが、自分から苦手なものについて言い出せない子どもなどに関しては、担任の方で配慮して「どうする?」「ちょっと減らしたい」といった対話をしながら食べる量の調節を行うようにしている。	3,4歳	子どもの気持ちに配慮して食事の量を調節している例	保育・幼児教育	○ 資料2に加筆
Q1		5歳児は、自分で担任に食べる量を伝えるようにしている。以前は全員同じ量を盛って、頑張って食べるということをしてきたこともあるが、食べる量にも個人差もあるので、子どもの気持ちや体調にも配慮しながら食事がとれるようにしている。	5歳	子どもの気持ちに配慮して食事の量を調節している例	保育・幼児教育	○ 資料2に加筆
Q1		にんじんが大嫌いであったが、母親から「煮たじゃがいもは食べる」という話があり、それをヒントに、にんじんをじゃがいもと同じような柔らかさになるようにスプーンでつぶして与えてみたところ、にんじんが食べられようになり、1か月後には、「もうつぶさなくていいよ。」と本人が言い、つぶさなくてもにんじんが食べられるようになった。そのとき、子ども自身が「僕の心がもう大丈夫と言っているからつぶさなくても食べられる」と言い、偏食の解決のプロセス(p.27,28のコラム)を経て、子ども自身が「大丈夫」と思えたところで食べられるようになった事例である。 母親と情報共有する中で、ヒントを得た担任(保育者)がスプーンでつぶすという工夫を続けることで、解決につながった。母親も、子どもの偏食の強さを気にしてはいるものの、どうにもできないと諦めモードでいたところであったため、保護者と保育者でともに大変喜んだ事例である。	5歳	保護者からの情報提供をもとに偏食対応した例	保育・幼児教育	○ 資料2に加筆
Q1		担任保育士が給食室と連携し、毎日別皿を1枚用意した。苦手な食材ばかりで食事に手をつけなかったので、食べられそうな食材を取り分け別皿に移して食べることを促し、一口が二口と最終的には1年ほどかかったが、今では完食できるようになった。		子どもの気持ちに配慮して配膳している例	保育・幼児教育	○ 資料2に加筆
Q1		園活動から収穫、クッキング、畑やスーパーに野菜を見に行く、絵本や紙芝居、調理している様子を見る、他児との供食等の働きかけは他園でも行われているので、園での取り組みについて記載します。苦手な野菜を少し減らし完食した喜びを味わうことで自信に繋がります。お替りをするようになっています。(最初は、減らした分がお替りするという感じですが)納豆と和えると小松菜・ほうれん草・にら等なんでも食べます。また、ツナやしらす春雨と和えと残菜が少ないので、保護者にそれらのメニューのレシピ提供やホームページ等でもお知らせしています。		偏食を克服するための取り組み	保育・幼児教育	○ 資料2に加筆
Q1		原材料が書かれたイラストを下に置いて、例えばかまぼこだったら魚があって、その上にかまぼこみたいな感じで、食べ物何からできているというのがめくると分かるみたいなのを今、貼り出していて、そういうのをやるとやっぱり子どもも食べ物に興味を持って、すごいめくる様子が幼児室で感じられたので、そういうのもいいなと思ったのと、あと食育カルタとかも取り入れると、結構それ子どもが意欲的にやっているの、そういう遊びとかを取り入れると、子どもの食に対する意欲が増すなというのを感じました。	3～5歳	食に興味を持たせるための工夫	保育・幼児教育	○ 資料2に加筆
Q1		月に一度、幼児さんにお弁当箱に入れて給食を提供するという日がありまして、そうすると例えばお外で給食を食べるということもできますし、環境を結構大きく変えることにつながります。やっぱり天気の良い日にお外で食べると、すごいいつもと環境が違って、食べが良かったりだとか。お弁当箱で出るということだけで子どもたちは喜んでくれます。ぱかっと開けて、それをどこでも食べられてという。普通にいつもどおりにお部屋の中でお弁当として提供するというのもあれば、お外に出て、園庭のほうでも机を並べて食べているという感じです。1歳児や2歳児も対応することがあるんですけども、お弁当箱を出してくださいと言ったら、それを出してあげて、するとすごくやっぱり喜んでくれて。ただそのお弁当箱で提供するだけに限らず、保育士のほうでも例えば箱に拾ってきた落ち葉とかどんぐりとかを入れて、お弁当みみたいな形にして、お弁当ができたというような活動、遊びを保育の中で取り入れて、それを実際に発展して、お弁当も本当に出してもらおうというふうには感じたりします。やっぱり食事生活の一部なので、遊びの中から発展して、食にというのはすごい良い流れかなと思います。それを実現できる環境がうちの園はあるのがすごく良いなと思ったりします。		食に興味を持たせるための工夫	保育・幼児教育	○ 資料2に加筆
Q1		私はいつもしているんですけども、食材を子どもたち、乳幼児に見せています。キャベツとかニンジンとか、その日の食材をちょっとカットしてもらって、子どもたちに見せています。そうすると、給食でその食材を探しながら食べてくれるので、これはずっとやっていることで、とても良かったかなと思います。先ほどの食材を見せながら、「どこどこ?」と探しながら、「それ食べてみて、ちょっと」とか言うと、食べるという行為になるので、あと褒めちぎる。すごい褒めて、あと、「いや、これを食べたらほっぺがぴかぴかになるよ」とか言ったり、「お目々が良くなるよ」とか言うと、一生懸命食べたり。言葉の効果って、やっぱり働き掛けてすごいなというのと、あとレストランみたいな感じにお花を飾ってテーブルで食べるとか、ちょっと特別感を出して、切り方とかもちょっと変えてくれるので、ニンジンだったり、ニンジンは結構好きな子がいるんですけども、結構食材の形を変えたりとか、盛り付けとかも気を付けてくれているので、そういうところでも食べにつながったりということはあります。調理師さんの存在とか、作ってくれる人とか、そういう意識とかというのは強くなったりします。		食に興味を持たせるための工夫	保育・幼児教育	○ 資料2に加筆

表16 インタビュー内容 資料2 Q&Aに追加検討する事例(つづき)

参考1	参考2	内容	対象年齢	カテゴリー	施設種別	ガイドへの反映
Q1		年少の時に、豆腐、チーズ、白ご飯など本当に白いものしか食べない子がた。最初は本当に少ない量から、こんな「食べ残しやんな」ぐらいの量からスタートして、本当に口に入っただけでも「食べられたね」と褒めちぎる感じでやっていった。全部を載せるんじゃないくて、「きょうはこれ、ほんなら1個増やしとか」とか、みんなとは給食の量や色合いは違うけれども、その子にとっては白いものプラス何かちょっと違うものがあるというのでも全然違ったんで。完食するということを経験するとうれしくなるし、やっぱり食べてみようかなと思えるようになる。まずは「食べられたね」「全部食べたね」というのを共感し合えるようにということを中心掛けていた。今でも食べられない子はそういうふうにしています。担任の先生が、「この子はこのぐらい」みたいなのを把握されて盛り分けている。「食べられたね」と褒めてくれるのは担任の先生かフリーの教員。だんだんそうなってくると子どもも担任にも行き、フリーの先生にも自分から「食べたよ」と見せに行き、2人に必ず見せに行く。たまに誰か違う者が入っていたらその先生にも見せに行くだったり。あとはお弁当とかだったら本当に違うクラスの先生の所まで行って「見て」と言って見せに来たりとかもする子もいました。なので、職員室まで来て私に見せてくれる子もいましたし。		徐々に少量から配膳した偏食の対応例	保育・幼児教育	○ 資料21に加筆
Q1		ダウン症の子の対応が難しい。頑張って食べている子どもの妨げにならないように栄養面で配慮している。	3,4歳	職員間の共通理解	保育・幼児教育	ダウン症児については本ガイドでは掲載しない
Q1		市独自で「保育の質ガイドブック」という事例集を作成し、市内に配布している。その中に栄養・食生活に関する事例も含まれている。		市内の保育園等への事例集の配布	保育・幼児教育	—
Q4		感覚が過敏な子どもへの対応が難しく、2歳までは個別対応がしやすいが、3歳以上になると3、4、5歳児でグループを作って食事をするので、一人だけ別の対応をするのが難しい。	3～5歳	個別対応の難しさ	保育・幼児教育	○ 資料21に加筆
Q6		夏に作ったキュウリだったり、自分たちで栽培したものを実際にみんなで食べることで、今まで全く野菜が食べられなかった子が食べることができたという事例があります。また、キュウリが苦手気味だったのにそこから好きになったという例も。このようなことを保護者に話すと、「そうなんですな」、「ちょっとうちで試してみます」と言って、苦手意識を減らす取っ掛けになりました。		子どもの主体性を大切にした栽培活用の例	保育・幼児教育	△ 既に事例に記載済み
Q6		ただ食べないからといってあげるのをやめるとか、食べさせないということではなく、食べなくてもあげることはやめないで、何度か試してみてくださいね。それでも食べないときは、「まあいつか食べるでしょう」という気持ちで見守っていったらいいかなと思います。	0歳	配膳はしながら気長に構える気持ちの重要性	保育・幼児教育	○ 資料21に加筆
事例6		年長になったら、苗からなんですけれども自分で夏野菜を選ぶんです。それで育てるんですけれども、年中、年少はクラスで育てたりするので。意外に嫌いなもの、食べられないものを育てるんですよ。好きなものをもちろん育てる子もいるんですけど、嫌いなものをあえて選んで育てて食べられるようになるとか。嫌いでもみんなで育てたし自分のクラスのやしというので、量もそんなにがばって食べるわけじゃないので、食べておいしくなくても「おいしい」と言うみたいです。ほんで、そっからちょっとずつ食べてみようという多分気持ちになるんですかね。食べて、年長になったらあえてトマトを選んで、「嫌いなんちゃうの？」と思うんですけれども育てて収穫して喜んで食べたりとかは。「もう食べられるようになった」みたいな感じになっていきますね。だから、やっぱり自分で手を加えたりしたものだと食べられるのかなと思います。		子どもの主体性を大切にした栽培活用の例	保育・幼児教育	△ 既に事例に記載済み
事例7		途中はもう雑草を、栄養泥棒と言っているんですけども雑草を抜きに行ったりとか、水やりをしに行ったりとか。そんなんで「まだやなあ」と言いながら育ててはいます。やっぱり食べ物に愛着心といいますか、そういうものもやっぱり育てながら給食も提供しつつという環境が食べるようになるというものにつながるんですかね。やっぱり簡単にはできないというのも分かってもらえる。失敗もやっぱりするので「今年はあんまりできひんかったなあ」と言ったり、「何があかんかったかなあ」というのを子どもたちも話ししながら。		子どもが楽しめるクッキング活動	保育・幼児教育	△ 既に事例に記載済み
新		カレークッキングとかでやっているんですけども、ジャガイモを洗ったりするのが年少さんとか年中さんで、「お願いします」と言って届けて、年長が包丁でジャガイモを切ったりニンジンも切ったりするんですが、出来上がったものを「いやー、これ誰々ちゃんが切ったニンジンちゃう？」と言って私とか周りが食べると、「めちゃうちゃうおいしいわ」とか言う自分も「みてー」みたいな感じで食べるというような感じで食べたりとかはします。	0～5歳	コロナ禍でも動画で子どもの食べている姿を保護者に見てもらい食具の扱いや楽しく食べることについて意識を促した例	保育・幼児教育	○ 資料21に加筆
新		食育サロンというのを0歳児、1歳児、2歳児と年齢ごとに毎月、夕方の送迎時間20分程度行っています。楽しく食べるにはやはり自分で食べる力と、あと食具を正しく持つ、お箸をきれいに持って食べるということにちょっと着目して、保護者に、あと給食の中でも保育士の中でも働き掛けをみんなでしていこうということで、そのテーマに沿って、給食の様子を動画で撮りました。保護者には、楽しく自分で食べることの大切さを話すなどの働きかけや、食育サロンでの動画を観ていただき、食事内容や楽しんで食べる様子を見ていただきました。手指の機能発達のための豆やスポンジをつまむお箸の練習を提案しました。家庭に、そちらの参加者のほうに、保護者が集まってくれたので動画を見ていただいて、いろいろなことを遊びで入れているんだよ、そうすると上手に持てるようになったり、手づかみ食べができるようになって、食べる力にもなるしねと。では、それを見て、保護者の方が実際におうちでも手作り玩具を使ってやってみましたとか、その翌日から手づかみ食べをする子どもの様子が見られて、お母さんが早速やってくださったという連絡ノートだったり、とても参考にしていただけたので、子どもの様子もそこでおうちでやってくれたんだねというのが分かるような変化がありました。コロナだから特に保育園の様子が見られない保護者さまも多いので、これを取り組んでいくのはとても良かったかなと思っているので、続けていきたいかなと思います。	3歳	朝食を食べない保護者への対応例	保育・幼児教育	○ 資料21に加筆
新		ナッツとかクラッカーとかしか朝食を食べてこない子がいたので、その子のお母さんがちょうど来てくれて、食にもとても興味がなくて、ご飯の時間とても苦痛そうだったので、どうしたらいいかという悩みがあって、そこでも見てもらったので、こんなに楽しく食べている様子を見て、むらもあるし、おうちで全然楽しくなさそうとお母さまが心配していたので、そうしたらお母さまが自分で子どもに食べさせていた。3歳児なんです。それは時間がかかるから、汚れるからだったんです。なので、こういうふう楽しく食べると、おうちでもこうやって食べるようになるよ、と働きかけたら、ご飯の内容がちょっと朝食っぽくなったので良かったなというところでした。		コロナ禍で口の動きを伝えるための工夫	保育・幼児教育	○ 資料21に加筆
新		コロナで、いろいろなそしゃくについて、マスクをしているので食事のときに働き掛けが難しいということで、どうしようかという話も持ちまして、一応このようなそしゃくパペットを購入して、こちらのほうで働き掛けをしようという話になりまして、今はこちらの働き掛けもして、結構好評です。かむことにとってもつながっております。		卒乳に関する支援	保育・幼児教育	卒乳に関しては本ガイドでは掲載しない
新		あと、学校との、就学での支援。今は小学校との交流が難しいので、連結ということで学校給食のメニューを今度入れたらどうかなというのをこちらのガイドを見て思いまして、そういうのもちょっと必要かなと、特にコロナだから小学校との交流が難しい今だから、学校給食を就学前の園児にちょっと味わってもらおう、そういう似たようなメニューですけれども、入れてみたいなのというところをこちらのガイドを見て、ちょっと思いました。		卒乳に関する支援	保育・幼児教育	卒乳に関しては本ガイドでは掲載しない
新		(卒乳・断乳の対応例)お母さん一人だと無理があるので、ぜひご家族のお父さんとかおばちゃんがいらっしゃったら、ちょっと甘えてご協力していただいて、でも本当に決めるのはママだから、揺るがない気持ちで、もうやると決めたらやりましょう。3日ぐらいは夜泣きとかがすごいかもしれないけれども、それでもう少し頑張ってみてください。(そうすると、「やっぱり3日でした」「4日でした」、「でもその後すぐよく食べました」という声がすごく多い)		卒乳に関する支援	保育・幼児教育	卒乳に関しては本ガイドでは掲載しない

「幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援ガイド」(案) Ver2 に関するご意見アンケート

「幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援ガイド」(案) Ver2 (以下、「支援ガイド案」とする) を一定期間 (1 か月以上) ご活用いただいた上で、以下のアンケートにご回答をお願いいたします。今後、支援ガイド案をよりよいものへと改善していくために、忌憚のない、率直なご意見をいただけますと幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。なお、**回答は貴施設で栄養・食生活支援に関わる方々の意見を総括する形で、代表者の方 1 名にご記入いただけますと幸いです。**

※まずこちらにご記入ください (およその活用期間を把握する上での参考にさせていただきます)

支援ガイド案を受け取った日【令和 3 年 月 日頃】～本アンケートを記入した日【令和 3 年 月 日】

I. 支援ガイド案の活用方法について、質問します。

1. 子どもや保護者に対する支援の場における、支援ガイド案の活用についてお尋ねします。

1-1. 活用状況：どのように支援ガイド案を活用しましたか。あてはまる番号すべてに○をしてください。

- ① 子どもの生活を把握したり、問題だと感じる行動を分析する際に参考にした。
- ② 保護者との個別面談・個別相談の場において、保護者が抱える子どもの食事の悩み事に関する助言内容の参考にした。
- ③ 保護者との個別面談・個別相談の場において、親子の食のどこに問題があるかを確認する際に活用した。
- ④ 個別指導や相談の場において、子どもの食に関する課題を確認する際に参考にした。
- ⑤ 子どもの食への関心があまりない保護者に対して、具体的な支援方法を検討する際に参考にした。
- ⑥ おたよりやリーフレットの内容に、支援ガイド案の内容を取り入れた。
- ⑦ 保護者会での話題提供の内容に、支援ガイド案の内容を取り入れた。
- ⑧ その他 ()
- ⑨ 子どもや保護者に対する支援の場では、特に活用しなかった。 ⇒p.2 へ

1-1 活用状況で①～⑧のいずれかに○をつけた方に伺います。

1-2. 主に、どの職種が支援ガイド案を活用しましたか。あてはまる番号すべてに○をしてください。

- ① 管理栄養士・栄養士 ② 保健師 ③ 看護師 ④ 保育士 ⑤ 幼稚園教諭 ⑥ 保育教諭
- ⑦ 調理員 ⑧ 医師 ⑨ 歯科医師 ⑩ 歯科衛生士 ⑪ 施設長・副施設長
- ⑫ その他 ()

1-3. 支援ガイド案は、子どもや保護者に対する支援の場において役立ちましたか(1 つに○)。そのように回答した理由やどのように役立ったか、役立たなかったかについても、ご記入ください。

- ① とても役立った ② 少し役立った ③ あまり役立った

【理由】

2-1.活用状況：どのように支援ガイド案を活用しましたか。あてはまる番号すべてに○をしてください。

- 2-1 活用状況で①～⑦のいずれかに○をつけた方に伺います。

① 管理栄養士・栄養士 ② 保健師 ③ 看護師 ④ 保育士 ⑤ 幼稚園教諭 ⑥ 保育教諭
⑦ 調理員 ⑧ 医師 ⑨ 歯科医師 ⑩ 歯科衛生士 ⑪ 施設長・副施設長
⑫ その他 ()

① とても役立った ② 少し役立った ③ あまり役立った

116

3. 他施設と連携した事業を検討・実施する際の、支援ガイド案の活用についてお尋ねします。

3-1.活用状況：どのように支援ガイド案を活用しましたか。あてはまる番号に○をしてください。

- ① 他施設・他機関と連携して食育を行ったり、支援を行う際に参考にした。
- ② 他施設・他機関と連携して食育を行ったり、支援を検討する際に参考にした。
- ③ その他（ ）
- ④ 他施設と連携した事業を検討・実施する際には、特に活用しなかった。⇒問 4 へ

3-1 活用状況で①～③のいずれかに○をつけた方に伺います。

3-2.主に、どのような施設・機関との連携に支援ガイド案を活用しましたか。あてはまる番号すべてに○をしてください。

- ① 市区町村母子保健担当部署 ②市区町村保育担当部署 ③ 病院・クリニック
- ④ 公立保育所・幼稚園・認定こども園 ⑤ 私立保育所・幼稚園・認定こども園 ⑥子育て支援センター
- ⑦ 児童館 ⑧小・中・高校 ⑨大学 ⑩農家 ⑪食品企業 ⑫スーパー等小売店
- ⑬ その他（ ）

3-3.支援ガイド案は、他施設・機関連携に役立ちましたか(1つに○)。そのように回答した理由やどのように役立ったか、役立たなかったかについても、ご記入ください。

- ① とても役立った ② 少し役立った ③ あまり役立った

【理由】

4. 1～3の「活用状況」で、すべて「活用しなかった」を選択した方にお尋ねします。

4-1. 活用しなかった理由を教えてください。

- ① 調査期間中に活用する機会がなかった
- ② 支援ガイド案に活用できる内容がなかった
- ③ その他（具体的に： ）

4-2. 4-1で「①調査期間中に活用する機会がなかった」を選んだ方にお尋ねします。今後活用する機会があるとすれば、どのような機会に活用することが可能だとお考えでしょうか。1-1, 1-2,1-3 の活用状況の選択肢よりあてはまるものを選び、番号を記入してください。該当するものがない場合は「その他」を選択し、その内容を記載してください。

- 1-1 子どもや保護者に対する支援の場（あてはまる番号 ）
- 2-1 施設内の支援者間での情報共有の場（あてはまる番号 ）
- 3-1 他施設と連携した事業を検討・実施する際（あてはまる番号 ）
- 4 その他（具体的に： ）

Ⅱ. 支援ガイド案の巻末に掲載された資料 1 および資料 2 について、質問します。（資料 1 及び 2 は令和 2 年度の本研究の調査結果等をふまえて追加された資料です）

1. 内容のわかりやすさについてお尋ねします。「わかりにくい」と回答した項目については、具体的にページのどのような点がわかりにくいと感じたか、教えてください。

1) 資料 1 乳幼児期における口腔機能の発達に対応した食の進め方

1. わかりやすい

2. わかりにくい

→どの内容（項目や文章）：

→わかりにくい内容：

2) 資料 2 幼児期の子ども・保護者の栄養・食生活支援に関する Q&A

1. わかりやすい

2. わかりにくい

→どの内容（項目や文章）：

→わかりにくい内容：

2. 資料 2 の Q として挙げられている例について、貴施設で実際に行ったことのある対応例（A）があれば、教えてください。

なお今後施設名は公表せずに、支援ガイドの改訂版に掲載させていただく可能性があります。

1) Q の番号

2) 対応例（誰がどのように支援し、その結果どのような改善や効果が見られたか）

3. 2 にご回答いただいた内容以外で、資料 2 に追加した方がよいと思われる Q や A があれば教えてください。

4. その他支援ガイド案に関する感想、ご意見等がありましたら、ご記入ください。

Ⅲ あなたの所属する組織やあなた自身（ご回答者様）について、教えてください。

1. あなたが現在所属する組織・施設について、あてはまるものをすべて選択してください。

（公設民営の場合は「私立」を選択してください）

1. 市区町村母子保健担当部署 2. 市区町村保育担当部署 3. 病院・クリニック
4. 公立保育所 5. 私立保育所 6. 公立幼稚園 7. 私立幼稚園 8. 公立認定こども園
9. 私立認定こども園 10. 子育て支援センター 11. その他（ ）

2. 現在所属する組織におけるご自身の職種について、あてはまるもの 1 つを選択してください。

1. 管理栄養士・栄養士 2. 保健師 3. 看護師 4. 保育士 5. 幼稚園教諭 6. 保育教諭
7. 調理員 8. 医師 9. 歯科医師 10. 歯科衛生士 11. 施設長・副施設長
12. その他（ ）

3. 2で選択した職種以外で保有している資格があれば、該当する番号を上記2の選択肢の中からあてはまるものをすべて選択し、カッコ内に番号を記入してください。（ ）

4. 現在ご自身が所属する組織における職種について、ご自身以外で幼児の栄養・食生活支援に関わる職種の方がいらっしゃいますか。あてはまるものすべてを選択してください。

1. 管理栄養士・栄養士 2. 保健師 3. 看護師 4. 保育士 5. 幼稚園教諭 6. 保育教諭
7. 調理員 8. 医師 9. 歯科医師 10. 歯科衛生士 11. 施設長・副施設長
12. その他（ ）

5. これまで業務として「幼児の栄養・食生活支援」に従事した合計年数を教えてください。現在所属する組織内で異動があった方や転職した場合（例：幼稚園から保育所へ、保育所から行政へ）は、現在所属する組織・部署以外も含めて考えてください。計（ ）年

6. 現在の勤務形態を教えてください。 1. 常勤職員 2. 非常勤・嘱託職員 3. その他（ ）

7. 性別 1. 男性 2. 女性 3. 回答したくない

8. 年代 1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代 5. 60代 6. 70代以上

以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。

このアンケート用紙と同意書（回答者、施設長）を一緒に返信用封筒に入れて返送してください。

**「幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援ガイド」(案) Ver2
に関する追加インタビュー調査 インタビューガイド兼記録用紙**

【実施日時】令和 3 年 月 日 : ~ :

【インタビュワー】 主担当者 : 同席者 :

【インタビュー】 施設名 : 回答者 :

【実施方法】 電話 ・ オンライン会議 ・ 訪問 ・ その他 ()

<開始時>

(挨拶)

本日はお忙しい中、インタビューのお時間を取っていただき、ありがとうございます。本日のインタビューを担当させていただく●●大学の●●と申します。(同席者がいる場合は、同席者の方も、所属と名前を言う)。どうぞよろしくお願いいたします。

本日のインタビューは、先日ご回答いただいたアンケートの内容について、具体的にお話を伺うことを目的としています。ご回答いただいた内容は、「幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援ガイド」(案) Ver2 (以下、「支援ガイド案」とします) の改訂のために活用させていただきます。

(記録の承諾・個人情報の保護)

ここでお話いただいた内容を正確に分析するために、録音させてもらいたいと思いますが、よろしいでしょうか？(反応を確認 ⇒ 諾 ・ 否)

録音したものは、文章に還元し、どのような発言があったか、分析を行います。情報には配慮いたしますので、ご発言には遠慮される必要はありません。本日、お話しいただく内容は、全て無記名で解析し、研究報告書、学会発表、学術誌で報告させていただきますが、回答者個人や施設名がわかるような形で結果が発表されることはありません。また、この研究の目的以外でデータを使用することはありません。このようなデータの活用にご了解いただけますか？(反応を確認 ⇒ 諾 ・ 否)

では、早速始めさせていただきます。

よろしければ、お手元にお送りした支援ガイド案と、ご回答されたアンケート調査用紙をご準備ください。

I.「幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援ガイド」(案) Ver2 (以下、「支援ガイド案」) の活用方法について

1-1. 子どもや保護者に対する支援の場における支援ガイド案の活用状況について

①実際、どのような場面で活用しましたか。

個別面談等で活用された場合は、対象児の年齢や、保護者の続柄（母親、父親、祖父母など）、普段の保護者の様子、普段の子どもの様子なども含め、どのような状況で活用するに至ったのか、また、どの職種の方が活用されたのか、実際の活用状況等について、なるべく詳しく教えてください。

研修会等で活用された場合は、対象者、対象人数、研修会の目的とおおまかな内容、また、どの職種の方が活用されたのか、実際の活用状況について、なるべく詳しく教えてください。

②活用後、何らかの改善がみられたのか、改善の方向性が見えたのか、変化はないのか、活用後の対象者の具体的な様子について、なるべく詳しく教えてください。

③まだ活用していない場合は、どのような活用方法がありそうか、教えてください。

1-2. 子どもや保護者に対する支援の場等において、支援ガイド案が役立った部分について

①具体的にどのページ、どの項目が役に立ったと感じたか、またその理由も教えてください。

2-1. 施設内の支援者間での情報共有の場等における支援ガイド案の活用状況について

①実際、どのような場面で活用しましたか。

どの職種の方が、どの職種の方と情報共有したか、共有の方法、共有の場面、タイミング、回数など、具体的に教えてください。

②活用後、何らかの改善がみられたのか、改善の方向性が見えたのか、変化はないのか、活用後の職員間の具体的な様子について、なるべく詳しく教えてください。

③まだ活用していない場合は、どのような活用方法がありそうか、教えてください。

2-2. 施設内の支援者間での情報共有の場等において、支援ガイド案が役立った部分について

①具体的にどのページ、どの項目が役に立ったと感じたか、またその理由も教えてください。

3-1. 他施設と連携した事業を検討・実施する際の、支援ガイド案の活用状況について

①実際、どのような場面で活用しましたか。

どのような施設・機関と連携し、どのようなことを実施したか、その際、支援ガイド案をどのように活用したか等、活用した状況等について、なるべく詳しく教えてください。

②活用後、何らかの改善がみられたのか、改善の方向性が見えたのか、変化はないのか、活用後のそれぞれの施設・機関等の具体的な様子について、なるべく詳しく教えてください。

③まだ活用していない場合は、どのような活用方法がありそうか、教えてください。

3-2. 他施設と連携した事業を検討・実施する際に、支援ガイド案が役立った部分について

①具体的にどのページ、どの項目が役に立ったと感じたか、またその理由も教えてください。

4. 1～3の「活用状況」で、すべて「活用しなかった」場合、活用しなかった理由を具体的に教えてください。

5. その他支援ガイド案について、全体を通してわかりにくいと感じた点や、改善した方がよいと感じた点などありましたら具体的にお聞かせください。

Ⅱ.支援ガイド案の巻末に掲載された追加資料 1 および追加資料 2 について

1. 支援ガイド案に追加した資料のわかりやすさ等について

1) 資料 1 乳幼児期における口腔機能の発達に対応した食の進め方

①わかりやすい点があれば、具体的に教えてください。

②わかりにくい点があれば、具体的に教えてください。また「こうなるとわかりやすい」と思われることがありましたら教えてください。

2) 資料 2 幼児期の子ども・保護者の栄養・食生活支援に関する Q&A

①わかりやすい点があれば、具体的に教えてください。

②わかりにくい点があれば、具体的に教えてください。また「こうなるとわかりやすい」と思われることがありましたら教えてください。

2. 資料 2 の Q として挙げられている例について、ご自分の施設で実際に行ったことのある対応例があれば、教えてください。

①同じような事例があれば、実際に対応した子どもは何歳児で、どのような子どもに対して、誰が、どのような対応をしたのか、その結果、どのように変化したのか、あるいは変化していないのか、等について、具体的に教えてください。

②同じような、別の事例があれば、自分の施設ではどのような対応をしていて、子どもたちはどのように変化しているのか、あるいは変化していないのかについて、具体的に教えてください。

3. ここまででご回答いただいた内容以外で、資料 2 の Q & A に追加した方がよいと思われる Q や A があれば、具体的に、その事例について教えてください。

＜ここから先は、質問紙の内容を事前に転記しておく。回答者が 2 名以上の場合は、回答者 2, 3 について聞き取る＞

Ⅲ.回答者の所属する組織や回答者自身について（複数の回答者がいる場合はそれぞれについて）

（回答者 1 について）

1. あなたが現在所属する組織・施設について、あてはまるものをすべて選択してください。

（公設民営の場合は「私立」を選択してください）

- 1.市区町村母子保健担当部署 2.市区町村保育担当部署 3.病院・クリニック
4.公立保育所 5.私立保育所 6.公立幼稚園 7.私立幼稚園 8.公立認定こども園
9.私立認定こども園 10.子育て支援センター 11.その他（ ）

2. 現在所属する組織におけるご自身の職種について、あてはまるもの 1 つを選択してください。

- 1.管理栄養士・栄養士 2.保健師 3.看護師 4.保育士 5.幼稚園教諭 6.保育教諭
7.調理員 8.医師 9.歯科医師 10.歯科衛生士 11.施設長・副施設長
12.その他（ ）

3. 2 で選択した職種以外で保有している資格があれば、該当する番号を上記 2 の選択肢の中からあてはまるものをすべて選択し、カッコ内に番号を記入してください。（ ）

4. 現在ご自身が所属する組織における職種について、ご自身以外で幼児の栄養・食生活支援に関わる職種の方がいらっしゃいますか。あてはまるものすべてを選択してください。

- 1.管理栄養士・栄養士 2.保健師 3.看護師 4.保育士 5.幼稚園教諭 6.保育教諭
7.調理員 8.医師 9.歯科医師 10.歯科衛生士 11.施設長・副施設長
12.その他（ ）

5. これまで業務として「幼児の栄養・食生活支援」に従事した合計年数を教えてください。現在所属する組織内で異動があった方や転職した場合（例：幼稚園から保育所へ、保育所から行政へ）は、現在所属する組織・部署以外も含めて考えてください。計（ ）年

6. 現在の勤務形態を教えてください。 1.常勤職員 2.非常勤・嘱託職員 3.その他（ ）

7. 性別 1. 男性 2. 女性 3. 回答したくない

8. 年代 1. 20 代 2. 30 代 3. 40 代 4. 50 代 5. 60 代 6. 70 代以上

(回答者 2 について)

2. 現在所属する組織におけるご自身の職種について、あてはまるもの 1 つを選択してください。

1.管理栄養士・栄養士 2.保健師 3.看護師 4.保育士 5.幼稚園教諭 6.保育教諭
7.調理員 8.医師 9.歯科医師 10.歯科衛生士 11.施設長・副施設長
12.その他 ()

3. 2で選択した職種以外で保有している資格があれば、該当する番号を上記2の選択肢の中からあてはまるものをすべて選択し、カッコ内に番号を記入してください。 ()

4. 現在ご自身が所属する組織における職種について、ご自身以外で幼児の栄養・食生活支援に関わる職種の方がいらっしゃいますか。あてはまるものすべてを選択してください。

1.管理栄養士・栄養士 2.保健師 3.看護師 4.保育士 5.幼稚園教諭 6.保育教諭
7.調理員 8.医師 9.歯科医師 10.歯科衛生士 11.施設長・副施設長
12.その他 ()

5. これまで業務として「幼児の栄養・食生活支援」に従事した合計年数を教えてください。現在所属する組織内で異動があった方や転職した場合（例：幼稚園から保育所へ、保育所から行政へ）は、現在所属する組織・部署以外も含めて考えてください。計（ ）年

6. 現在の勤務形態を教えてください。 1.常勤職員 2.非常勤・嘱託職員 3.その他 ()

7. 性別 1. 男性 2. 女性 3. 回答したくない

8. 年代 1. 20 代 2. 30 代 3. 40 代 4. 50 代 5. 60 代 6. 70 代以上

(回答者 3 について)

2. 現在所属する組織におけるご自身の職種について、あてはまるもの 1 つを選択してください。

- 1.管理栄養士・栄養士 2.保健師 3.看護師 4.保育士 5.幼稚園教諭 6.保育教諭
7.調理員 8.医師 9.歯科医師 10.歯科衛生士 11.施設長・副施設長
12.その他 ()

3. 2 で選択した職種以外で保有している資格があれば、該当する番号を上記 2 の選択肢の中からあてはまるものをすべて選択し、カッコ内に番号を記入してください。 ()

4. 現在ご自身が所属する組織における職種について、ご自身以外で幼児の栄養・食生活支援に関わる職種の方がいらっしゃいますか。あてはまるものすべてを選択してください。

- 1.管理栄養士・栄養士 2.保健師 3.看護師 4.保育士 5.幼稚園教諭 6.保育教諭
7.調理員 8.医師 9.歯科医師 10.歯科衛生士 11.施設長・副施設長
12.その他 ()

5. これまで業務として「幼児の栄養・食生活支援」に従事した合計年数を教えてください。現在所属する組織内で異動があった方や転職した場合（例：幼稚園から保育所へ、保育所から行政へ）は、現在所属する組織・部署以外も含めて考えてください。計 () 年

6. 現在の勤務形態を教えてください。 1.常勤職員 2.非常勤・嘱託職員 3.その他 ()

7. 性別 1. 男性 2. 女性 3. 回答したくない

8. 年代 1. 20 代 2. 30 代 3. 40 代 4. 50 代 5. 60 代 6. 70 代以上

<終了後>

本日は貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

これでインタビューは終了とさせていただきます。

後ほど、心ばかりですが謝礼のクオカードを送らせていただきます。お受け取りになりましたら、受領書にご署名いただき、ご返送いただけますでしょうか。